

つながる子どもの育ちと学び

はじめの いっぽ

もういっぽ

～保幼小連携、これで充実させよう～



令和6年12月

山口県乳幼児の育ちと学び支援センター

はじめに

平成29年3月に改訂された、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「幼児期からの発達と学びの連続性」「小学校との接続の在り方」が明示されました。また、小学校学習指導要領においても「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて指導を工夫することが示され、連携をより一層充実していくことが求められているところです。

また、幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会では、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期として、5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と位置付け、幼保小の架け橋プログラムの実施がスタートしました。このプログラムは、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることをめざすものです。

山口県でも、令和4年度から3年間「幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業」を受託し、架け橋期のカリキュラム開発に係る調査研究事業に取り組んできました。本県では、子どもの成長していく過程にならない、「保幼小」の文言を使用し、保幼小連携に関する取組として、カリキュラム開発会議及び架け橋期のコーディネーターの設置や連携推進のための研修会の開催等を行っております。

また、小学校の教員を保育所・幼稚園・認定こども園へ1年間派遣する長期研修を平成16年度から行っており、現在までに81名の教員を派遣し、本県における保幼小連携の推進に資する人材の育成に努めております。

本冊子は、調査研究事業の一環として、令和5年3月刊行リーフレット「つながる子どもの育ちと学び はじめのいっぽ ～保幼小連携、ここからはじめよう～」を基に、域内の園・所や小学校、市町教育委員会及び保育主管課等の実践事例を掲載し、保幼小連携に向けた取組の詳細が分かるよう作成いたしました。また、架け橋期のカリキュラム作成の参考となるよう、幼児教育・保育長期研修派遣教員が作成したカリキュラムも掲載しております。各園・所及び小学校、地域において、それぞれの特性を活かしながら連携を進めていかれる手立ての一つとして、是非御活用ください。

最後になりましたが、本冊子作成において、御指導いただいた周南公立大学人間健康科学部 准教授 金子 幸 様、山口大学教育学部 講師 青山 翔 様をはじめ、貴重な事例を御提供いただきましたワーキンググループの皆様、御指導いただきましたカリキュラム開発会議の委員の皆様、に、厚く御礼申し上げます。

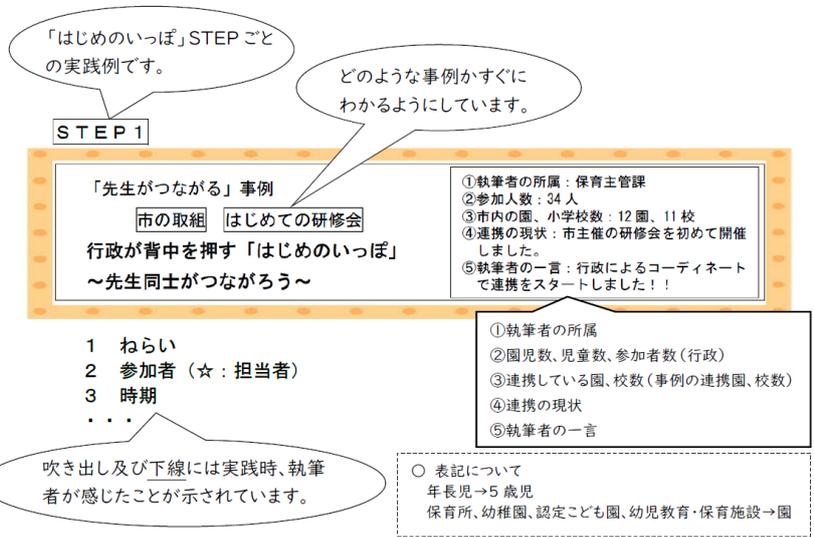
令和6年12月

山口県乳幼児の育ちと学び支援センター
所長 田中 マキ子

目次

子どもの育ちと学びはつながっていく	・・・・・・・・・・	1
STEP 0 保幼小連携って？ Q & A	・・・・・・・・・・	3
「つながり」の充実に向けて	・・・・・・・・・・	5
STEP 1 先生がつながる Q & A	・・・・・・・・・・	7
実践例	・・・・・・・・・・	9
STEP 2 子どもがつながる Q & A	・・・・・・・・・・	15
実践例	・・・・・・・・・・	17
STEP 3 育ちと学びがつながる Q & A	・・・・・・・・・・	27
実践例	・・・・・・・・・・	29

実践例の見方



架け橋期のカリキュラムとは	・・・・・・・・・・	40
架け橋期のカリキュラム例	・・・・・・・・・・	41
引用・参考文献及び参考資料	・・・・・・・・・・	51

※ 乳幼児の育ちと学び支援センターWeb ページに
全面カラー版を掲載しております。



子どもの育ちと学びはつながっていく

子どもの育ちと
学びのつながり

中学校以降

園

「生きる力」の基礎を培う

経験カリキュラム
一人ひとりの生活や体験からの学び、自発的な活動を重視

5領域を総合的に展開
(乳児保育は3つの視点)

方向目標
「味わう」「感じる」等方向付けを重視

学びの芽生えの時期

知識及び技能の基礎
豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになる

子どもの思い
子どもの発言

水を入れすぎて崩れちゃった。(気づき)
びちゃびちゃして気持ちいい!(感覚・性質の発見)

坂にしたら流れるかな。(予想)
水が流れないからもっと掘ってみよう。(試行錯誤)
水をもっとゆっくり入れたらどうかな。(言葉による伝え合い)

少しよけたら一緒に入れるよ。(思いやり)
難しいけどやってみよう!(意欲・自信)

水を汲んで来てくれる間に、ぼくはこっちをもっと掘っておくね。(役割分担・協力)

気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする

心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

思考力、判断力、表現力等の基礎 **学びに向かう力、人間性等**

「生きる力」を育む

知識及び技能
何を理解しているか、何ができるか

よく見ると、葉っぱに小さな毛が生えているね。(詳細な気づき)

葉っぱが大きくなってつるも伸びてきたよ。(伝え合い・振り返り)

昨日学習したことが使えそうだね。(試す・見通す・工夫する)

他の考え方もありそうだね。(見付ける・比べる・例える)

学校の中には、部屋がたくさんあるね。(自ら働きかける)

もっと調べてみたい!(活動への意欲)

思考力、判断力、表現力等
理解していること・できることをどう使うか

どっかのやり方がいいか図で比べてみようよ。(図に表す)

学びに向かう力、人間性等
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

小学校

教科カリキュラム
学問の体系を重視

各教科等の学習内容を系統的に学ぶ

到達目標
「~できるようになる」といった目標への到達度を重視

自覚的な学びの時期

遊びや生活を通して学ぶ

主体的・対話的で深い学びの実現

教科等を通して学ぶ

例えば 5 歳児の「春の散歩」では…
ねらい「春の草花や生き物などの自然に興味をもち、関わることを楽しむ。」

活動前
一緒に先を決めることで興味膨らむようにする
野原と川沿い、どっちを通ろうか?
見守る
見取る
どんなことを感じているのかな。どうして興味をもったのかな。
方法を考えたり、新たな発見や興味を深めたりできるようにする
〇〇ちゃんが見付けたこれは何だろうね?どうやったらわかるかな。

活動中
何を持って行くといいかな?
必要な物を考え、活動の見通しがもてるようにする
面白いものを見付けたね。
子どもの発見や感情に共感し受け止める
また行きたいね。今度はいつ行こうか?
遊びのつながりや次への期待がもてるようにする

活動後
春の草花に興味をもてるような声を掛ける
この前、シロツメクサがたくさん咲いていたよ。みんなと一緒に見に行きたいな。
子どもの発見を友達に広げる
〇〇ちゃんがこんなものを見付けたんだって。
発見したことや感じたことを伝え合う機会をもつ
素敵なものをたくさん見付けたね。みんなに伝えたい人いるかな?

例えば 1 年生活科単元「はるをみつけよう」では…
ねらい「春の自然を観察したり、遊んだりする活動を通して、春のよさや楽しさを体感できるようにする。」

活動前
経験を共有することで、季節への興味をもてるようにする
春について知っていることはある?春にどんなことをしている?
見守る
見取る
どんなことを考え、何をしようとしているのかな。見守ってみよう。
振り返り
めあてをもとに振り返り、気づきを整理する
振り返りをするよ。春と友達になれたかな?どうしてそう思ったのかな?

活動中
もっと春を楽しんで、「春と友達になりたい」のだね。めあてができたね。
やりとりを通して子どもが自分たちでめあてをつくることで、単元への意欲を高める
みんなにみせてあげたいけど、大きすぎて持って帰れないね。どうしようか。
タブレットの活用方法に気付くことができるようにする
みんなの考えを聞いて、どうしたら春と友達になれると思う?
友達との比較を通して気づきが深まるようにする

活動後
めあてをイメージすることで、単元の見通しがもてるようにする
めあて「はるともだちになろう」
どうしたら春と友達になれるかな?どんなことがしたい?
遊びの発展や深化を促すようにする
同じ春でも色々な遊び方があるかもしれないね。
春のよさや楽しさを共有することで、生活を楽しくする方法に気付く
春と友達になると、どんな良いことや楽しいことがあるかな?

同じようで違う、
違うようで同じ。
だからこそ話し合う
ことが大切です。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を話し合いの手掛かりに!
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、幼児教育及び保育においてふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、育みたい資質・能力が育まれている具体的な姿です。到達すべき目標や個別に取り出されて指導されるものではないことに留意が必要です。

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

詳しくはこちら!



園の環境
子どもたちは、園の環境の中で、遊びや生活などの経験を通してたくさん力を伸ばしていきます。この根っこがあるから、子どもたちの「生きる力」が大きく伸びていくのです。

小学校に入学して、園で育んだ力をさらに伸ばしていこうとする子どもたち。子どもに関わる大人みんなで、子どもの育ちと学びをどうつないでいくのか話し合うことが大切です。

水をあげなければ枯れてしまう。あげすぎても枯れてしまう。花にもよる。適量はどのくらいか一緒に考えよう!

育ちと学びをつなぐことで、その子らしく「生きる力」を伸ばしていけるように!

STEP 0

保幼小連携って？

山口県では、子どもの成長の過程にならって「保幼小」という文言を使用しています。文部科学省では「幼保小」を使用しています。

まずは「保幼小連携」に関する素朴な疑問について確認してみましょう。

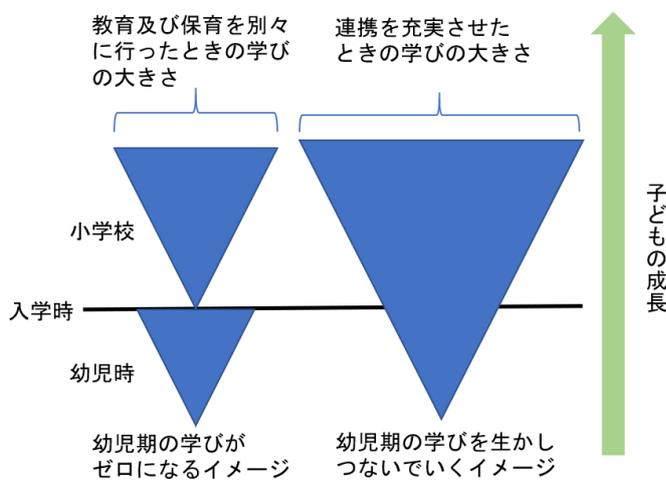


Q1 どうして「保幼小連携」が大切なのですか？

A1. 園と小学校が連携すると、子どもが安心感をもって園・学校生活を送ることができるようになるからです。子どもだけでなく、保護者も安心することができます。

安心感のある生活を基盤にして連携することにより、子どもの力を大きく伸ばすことができます。

右図のように、園と小学校が教育及び保育を別々に行っていると、小学校入学時点で、幼児期の学びはゼロになり、そこからまた学びをつかっていくことになります。一方、連携を充実させると、幼児期の学びを生かしつないでいくことができ、学びの積み重ねが期待できます。この2つの学びの大きさの違いは歴然です。このことは、幼児教育で育まれた資質・能力を小学校以降の教育で更に伸ばしていくことにつながります。一人ひとりの子どもの育ちや学びが途切れることのないよう、環境を整えていくことが重要です。

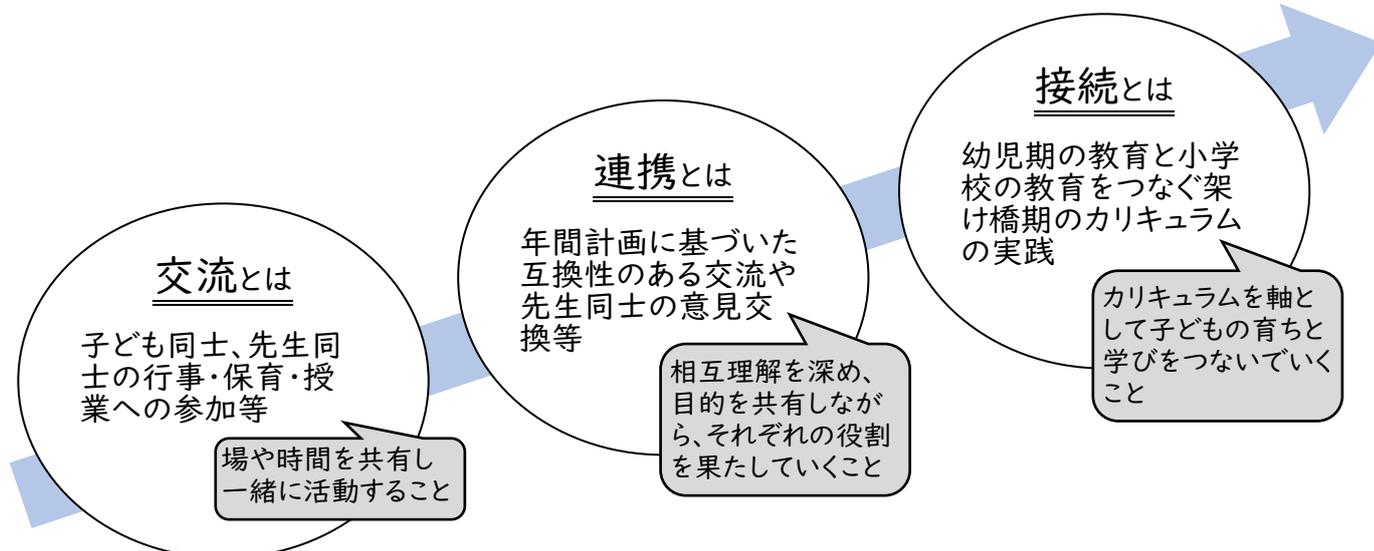


無藤隆「保育の学校」を基に作成



Q2 「交流」「連携」「接続」 同じような言葉ですが、それぞれの意味は？

A2. 「交流」から「連携」そして「接続」へ、取組が進むことをイメージして使い分けてみましょう。





「幼児期の教育を小学校教育に生かし学びをつなぐ」ためにはどうすればよいですか？

A3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手掛かりにするとよいです。そして、園と小学校の先生が協働して架け橋期のカリキュラムを作成し、実践・検証・改善を行っていきます。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」をどのように活用したらよいですか？

A4. 園と小学校が子どもの育ちや学びを共有する際の共通言語として活用してみてください。園と小学校の先生が、子どもの育ちや学びの姿について話し合うときに、今ひとつ姿をイメージしにくいことがあります。その際、「『協同性』は…」のように、この姿を活用すると、園の先生は、子どもの育ちや学びの姿を分かりやすく伝えることができます。また、小学校の先生も同様に子どもの姿を受け取りやすくなります。まずは、合同での保育・授業参観等を通して、この姿を視点にして子どもの育ちや学びを見取り、話し合ってみてください。



「幼保小の架け橋プログラム」とは何ですか？

A5. 子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことができるようにすることをめざすものです。

子どもたちを学校のために準備させるのではなく、学校が子どもたちのために準備することに焦点を当てよう。by.OECD(2017)Starting StrongV

「幼保小の架け橋プログラム」
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」

詳しくはこちら→



※架け橋期…「経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考え試しながら実現していく5歳児」と「自分の好きなことや得意なことを生かしながら、学びや生活につながる力を育む1年生」の2年間のこと。(P27. STEP3の図参照)

「つながり」の充実に向けて
～一人ひとりの子どもの育ちを支えていくために～

大切にしたいこと

- 「相互理解」
互いのことを知る
- 「受容」
互いを認め合い、
よさを取り入れる
- 「協働」
目的や目標に向け
て一緒に取組を計
画・実施・改善する

取り組んでみたい
ことを考えましょう!!

現在、保幼小連携に関する取組を行
っている園・小学校は多いです。自
園・自校の現状をもとに、「つながり」
をより充実させるために取り組んでみ
たいことを考えましょう!!

- 先生同士のつながりを作りたい。
- 園・小学校それぞれのことを互いにもっと知りたい。

STEP 1
P7~14

- 新しいことではなく、いつもの活動や行事を生かして交流したい。
- どちらの子どもにとっても学びのある交流をしたい。

STEP 2
P15~26

- 園・小学校で子どもの姿を共有したい。
- 交流やカリキュラムを見直し、改善させたい。

STEP 3
P27~39

「架け橋期のカリキュラム」の作成を進める過程で
大切にしたいことを共通理解しよう!

語ろう!子どもたちのこと

実際の子どもたちの
様子と一緒に見る機会
をもちましょう!
「幼児期の終わりまで
に育ってほしい姿
(10の姿)」を視点に
話し合しましょう!

共有しよう!めざす子ども像

子どもたちに関わ
る大人でどんな子ど
もを育てていこうとす
るのか語り合い、共
有しましょう!



真ん中に**対話**しよう

園と小学校が互い
の教育内容、大切に
している援助や支援を
知ることが大切です!

園と小学校が共通
の視点で話し合うこと
で、援助・支援内容や
その方法が具体的か
つ系統的につながり
ます!

知ろう!園のこと学校のこと

つなげよう!育みたい資質・能力

対話したことを、「架け橋期のカリキュラム」として可視化!

実践・検証

改善

	0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～																						
共通の視点として 考えられる項目別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
①期間とする・開催																										
②誰がや学びのプロセス																										
③園で展開される活動/小 学校の生活科を中心とし たる資料等の単元構成等																										
④子どもの 関わり																										
⑤園・小学校の 生活科に関する 領域の構成 ・小学校の編 成づくり(1)																										
⑥子どもの交流																										
⑦家庭や地域との連携																										

詳しくはこちら



子どもの育ちと
学びのつながり





先生がつながる

子ども同士のつながりをつくるために、まずは先生がつながりましょう。



Q1

「先生がつながる」仕組みづくりのために、何から始めたらよいですか？

A1. 管理職のつながりがスタートになります。特に、小学校の校長が調整役となって進めてみてはどうでしょうか。園と小学校の管理職同士のつながりができたら、それぞれ連絡窓口となる担当（保幼小連携担当、園務・教務主任等）を決め、何ができるかを話す場を設定しましょう。まずは「お互いの顔が分かるつながり」をめざすことから始めませんか。

中学校区内にある園、小・中学校の管理職、担当校の教育委員会の指導主事が月1回、連絡会を行っている市町の事例もあります。



Q2

5歳児クラスや1年生の担任が進めるものですか？

A2. 連携の推進役は5歳児クラスや1年生の担任になることが多いですが、全教職員で推進していきましょう。いろいろな年齢・学年が交流することで、連携はみんなで推進するという意識が高まります。保幼小の先生が対話する機会が増えることで、それぞれの教育・保育の特性や先生方が大切にしていること、例えば、幼児教育・保育では「生活や体験を大切にする」「子ども一人ひとりを丁寧に見る」、小学校教育では「系統的に学ぶ」といったことを知ることがができます。これは、それぞれの教育・保育の改善に生かすことができます。



Q3

園と学校では、なかなか時間が合いません。どのようにしたらよいですか？

A3. 日常的に交流できる体制づくりと様々なツールの活用を意識してみましょう。保幼小連携は時間調整が難しいです。まずは、人間関係づくりを大切に、教職員同士が積極的に日常的な交流を積み重ねましょう（参観や散歩など）。打合せも、時間が限られているので、電話やメール、オンライン会議システムなどを活用して効率よく行うとよいでしょう。また、交流活動を行う際には、年度末に計画し、次年度の行事予定に入れておくのも有効な一つです。



Q4

（離島やへき地など）小学校区内に園がなく、架け橋期（5歳児・1年生）に該当する園児・児童がいません。どのように取り組んだらよいですか？

A4. 地域の実情に合わせて取り組みましょう。架け橋期に該当する園児・児童が在籍していない場合でも、県や市町が主催する保幼小連携研修会や連絡協議会に参加することで、園と小学校の教職員がつながったり、連携に関する情報交換を行ったりすることができます。架け橋期の園児・児童が在籍するようになった時に、「いつでも・誰でも」進められる体制づくりをめざしましょう。



園だより・学校だよりの 活用法は？

A5. おたよりは連携推進の大きなツールです。互いに交換するだけでも、園、小学校がどのような取組をしているのかを知ることができるだけでなく、子ども同士の交流の始まりにもなります。

例えば、

- ①小学校で運動会があることを知る。
- ②小学生がかけっこをする姿を園児が見る。
- ③園の遊びの中でかけっこが広まる。

園児が校長室に「おたよりゆうびん」を届けている園もあります。

また、おたよりを共有する際、回覧以外にも、定位置にコーナーをつくる、目に付きやすいコピー機の前に掲示する等の工夫をするとより効果的です。



保育参観・授業参観では、どのような視点でどのような場面を見るとよいのでしょうか？

A6. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を視点にして参観すると、子どもの姿を共有しやすくなります。

保育では、自由遊びで遊び込んでいる場面、集団で何かに取り組んでいる場面などを見ると、園児の様々な姿を見取ることができ、理解につながります。給食（お弁当）、片付け、手洗いやトイレ指導なども小学校とのつながりが見えてよいです。

授業では、はじめは、保育内容とのつながりが見えやすい生活科、体育科、特別活動などの教科を参観場面として設定するとよいでしょう。

教科だけでなく、給食、掃除、朝・帰りの会といった生活場面の様子を参観するのもおすすめです。



STEP 1

「先生がつながる」事例

市の取組 はじめての研修会

行政が背中を押す「はじめてのいっぽ」 ～先生同士がつながろう～

- ①執筆者の所属：保育主管課
- ②参加人数：34人
- ③市内の園、小学校数：12園、11校
- ④連携の現状：市主催の研修会を初めて開催しました。
- ⑤執筆者の一言：行政によるコーディネートで連携をスタートしました！！

1 ねらい

- 市内全ての園と小学校を対象とした保幼小連携の研修会を開催することにより、連携の必要性について共通認識をもち、各地域の実情に応じた連携の方法を考える。
- 市内全ての園と小学校の先生が集まり、他の園や学校で取り組んでいる好事例を参考にすることで、今後の連携に生かせるようにする。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

- 園（12園） 園長、5歳児クラス担任（計21人）
- 小学校（11校） 校長・教頭などの管理職及び1年生担任（計13人）
- 行政機関 教育委員会担当者、☆保育主管課担当者

3 時期

2学期の前半 午後の時間帯

園の先生方が集まりやすいとの意見があり、午後に開催しました！

4 内容・時間

(1) 講義（90分）

乳幼児の育ちと学び支援センターの幼児教育アドバイザーによる保幼小連携に関する講義を通して、共通認識をもつ。

詳しくはこちら→



(2) 事例紹介・グループワーク（70分）

市内を3地域に分け、主に園からの事例紹介をもとに協議・演習を行う。

(3) 振り返り・質疑応答（15分）

事例紹介・グループワークにおける気付きや感想を整理し、今後の具体的な連携方法について相互に意見交換を行う。必要に応じて幼児教育アドバイザーから連携のヒントについて提案を受ける。

5 取組を充実させるためのポイント

- 市内全ての園と小学校から参加してもらえるように、教育委員会と保育主管課が一体となり、相互の調整を図りながら研修会を開催する。
- クラス担任だけではなく、園長や校長・教頭等の管理職にも参加を促すことで研修内容を園内、校内にもち帰り、保幼小連携の共通認識をもつことができるようにする。
- 校区の枠を超えたグループワークを行うことにより、日頃交流の少ない園や学校の事例を情報共有できるようにする。

校区シャッフル型で行うことにより、新たな視点に気付いたり、発想を広げたりすることができ、取組への刺激にもつながります！

STEP 1

6 取組の実際

乳幼セのアドバイザー等訪問事業を活用することで、講義の調整がスムーズになります。

(1) 講義

乳幼児の育ちと学び支援センターの幼児教育アドバイザーから「保幼小連携で大切なこと」をテーマとし、取組の現状や連携を行う際の課題解決の方策などについて講義を受けました。園と小学校との知識・認識・文化のギャップを埋める工夫が必要であり、何よりも子どもを主体として考え、連携に取り組むことが重要であることを再認識できました。子どもを主体とした連携を進めるためには、「子どもが不思議に思ったことに共感する」「学ぶことが楽しいと思える心を育む」といった視点をもつことが重要であると改めて実感することができました。

(2) 事例紹介・グループワーク

園からは、「興味のある遊びを通して育っている力」について、取組内容の紹介がありました。ある園の事例では、ヘビに興味をもった子どもがおり、そこから「世界にはどんなヘビがいるの?」「ヘビの長さはどのくらい?」といった疑問が生まれ、実際にみんなで種類を調べたり、長さを再現したりすることで、協同性や数量への興味関心につながったことが紹介されました。小学校の先生からは、「園での遊びが算数科や理科など、小学校での様々な学習につながっていることが改めて実感できた。」との声が挙がっていました。

小学校の先生に、取組の様子が分かる写真を実際に見てもらうことにより、園の「ねらい」を理解してもらうことにもつながりました。



(3) 振り返り・質疑応答

事例紹介での小学校の先生からの反応を受け、園の先生からは、「小学校での授業の様子を実際に見て、今まで以上に連携を意識して取り組みたい。」といった意見が出ました。市内全ての園と小学校の先生が集まることで、顔の見える関係ができて、お互いの距離が縮まり、今後の具体的な連携に向けての土台となりました。

また、幼児教育アドバイザーから「就学後に小学校と卒業した園とを柔軟に行き来できるような環境を整備するなど、小規模な自治体だからこそできる新しい連携の在り方を考えてもよいのでは?」との提案もありました。これまでの形にとらわれずそれぞれの地域の実情に合った、新しい連携の在り方を考えるきっかけにもなりました。

研修後に実施したアンケートには、園の先生からは、「小学校との距離が近くなり連携が取りやすくなった。」、小学校の先生からは、「保幼小の連携がスムーズに進むように、行事や生活科などの学習を通じて一緒に活動するなど子ども同士の関わりをもてるようにしたい。」などの意見があり、今後は、より具体的で継続性のある連携への取組が必要であると感じました。



来年度以降は、カリキュラムの作成や小学校からの園訪問などを進める予定です。

STEP 1

「先生がつながる」事例

気軽に いつでも

見て、来て、感じて、つながろう

- ①執筆者の所属：保育所
- ②園児数：150人
- ③連携校数：1校
- ④連携の現状：年数回交流しています。
- ⑤執筆者の一言：垣根を低くして、交流できる機会を作ることにより、連携しやすい関係が構築できます。

1 ねらい

- 子どもたちが園でどのような生活を送っているのかを直接見ることにより、幼児期の育ちや保育についての理解を深める。
- 先生同士が直接語り合うことにより、顔の見えるつながりをつくり、子どもの育ちを共有するとともに、なんでも聞き合える関係づくりを行う。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

所長、☆主任保育士

校長、教頭（2人）、1年生担任（5人）
他学年の担任や特別支援学級の担任等（4人）

小学校

3 時期

小学校の夏休み期間

日程に幅をもたせると、小学校の先生の参加率が高まります。

4 内容・時間

- 参加者の都合に合わせて、順次見学を行う。（目安の時間 10:00～12:00の間）
- 園内を所長や主任が案内しながら、園の様子を紹介する。
- 見学だけでなく、保育に参加することも可能。

一方的に話すのではなく、対話型で説明すると小学校の先生から質問が出やすくなります。

5 取組を充実させるためのポイント

- 連絡会等の既存の機会を生かして、管理職が意思の疎通を図り、土台づくりをしておくこと、その後の活動の計画が立てやすく、スムーズに準備を進めることができる。
- 小学校の先生が参加しやすいように、時間や日にちにゆとりをもたせる。
- 形式にこだわらずに垣根を低くし、互いの情報を伝え合うことに焦点を当てる。
- 参加者が見たいところに行き、聞きたいことを聞き、知りたいことを知ることができるように、ウェルカムな雰囲気づくりを行う。

保育に直接参加したくなる機会や雰囲気づくりをすると、小学校の先生が子どもや園の先生の思いを理解しやすくなります。

STEP 1

6 取組の実際

(1) 打合せ

6月中旬に本市が行っている保幼小連携ブロック連絡協議会があり、その中で校區別連絡会がありました。コロナ禍で途絶えてしまっている交流の在り方などを検討し、今年度から行えそうな内容を挙げていきました。内容は、「授業参観&前年度担当との連絡会」「運動会や音楽会のリハーサル見学」「養護教諭や栄養教諭の話を聞く機会」「5歳児が1年生の授業見学」等です。またその中で、子どもたちの園での生活を小学校の先生方に知っていただく機会をもつように提案し、双方で調整を行うことを決めました。その後、7月中旬、園より見学可能な日を伝え、小学校側で調整を図りました。

(2) 園見学

園での保育の様子分かる「ドキュメンテーション」や0歳児からの「10の姿のつながり」、「園舎内の配置図」等の資料を用意し、当日に紙媒体として情報を提供しました。見学時は所長と主任が各年齢の保育室を紹介しました。また、子育て支援センターも併設しているため、地域との連携についても説明を行いました。特に5歳児クラスの様子を見学することができるように時間配分を考えました。

子どもたちの様子を伝える中で、保育や小学校教育の大変さ（特に保護者対応や、個別対応が必要な子どもへの配慮等）など互いの業務内容の見えない部分を共感し合うことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

園生活でいろいろな経験をしていることを実感していただき、この経験をつなげていけるようにしていきたいとの感想も聞くことができ、嬉しく思いました。

(3) 振り返り

小学校から12名の先生方が参加していただき、保育に対する理解が深まったとの声を聞けたことは大変有意義でした。また直接子どもの様子や環境を見て、疑問点を確認したり、共通点を認識し合ったりすることにより、参加者同士、顔の見えるつながりがはっきりできたと思います。

しかし、遊びが中心の幼児教育と授業が中心の学校教育をつなぐ10の姿を共有することの難しさを感じました。

今後はさらにつながりを深めていくことができるように、グループを作って意見を交換したり、オンラインフォームなどを使ったアンケート形式で、見取った10の姿や感じたこと等を記入したりして、互いの視点を知ることができるとさらに連携が深まっていくのではないかと感じました。



STEP 1

「先生がつながる」事例

校内研修 授業参観

学び合おう！「保幼小連携」について

- ①執筆者の所属：小学校
- ②児童数：641人
- ③連携園数：4園
- ④連携の現状：年2回の合同研修会と授業参観を行っています。
- ⑤執筆者の一言：保幼小の先生が対話することで互いの教育及び保育をつなぐことができます。

1 ねらい

- 校区内の園と小学校の先生が直接顔を合わせ、対話をする場を設けることで、互いの教育及び保育について共通理解を図る。
- 小学校1年生の様子を知ったり、就学前の学びや育ちを共有したりすることで、子どもの心身の成長の過程について理解を深める。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

校区内保育所・幼稚園・認定こども園園長
クラス担任、クラス担任補助（計15人）

校長・教頭、教諭、養護教諭
☆保幼小連携の担当者（計35人）

小学校

3 時期

1学期から2学期にかけて

保幼小の先生が集まる機会を作ることが
大切です！

4 内容・時間

(1)1学期【5月】(90分)

園と小学校の先生が一緒に研修を行い、保幼小連携についての実践を紹介し合い、意見交流する中で、互いが顔見知りになる。

(2)小学校の夏休み(90分)

「入学から学校生活に慣れるまでの1年生の生活」について担任が話すことで、校区内の園の先生と小学校の先生が1年生の入学当初の学校生活の様子について共通理解を図る。

(3)2学期【10月】(90分)

授業参観を通して、実際に園での学びが小学校での教育にどのように生かされているのかを考え、協議する。

5 取組を充実させるためのポイント

- 小学校区内に多数の園がある場合は、小学校側から「校内研修」への参加呼び掛けなどの発信があると集まりやすくなる。互いが顔見知りになった後、さらに研修内容を保幼小で検討したり、年度によっては研修の在り方を変えたりする（園側の話を聞く）などの方法を探っていくといい。
- 小学校の授業を参観する機会をもつことで、園の先生に子どもの成長を感じてもらおうとともに、園での学びがどのように小学校の教育に生かされているのか協議しながら理解を深めていく。

授業参観後に協議することで、お互いの教育及び保育について理解を深めることができます。

STEP 1

6 取組の実際

(1) 校内研修への参加

小学校は、全教職員が参加し、校区内の園の先生方は、園長や 5 歳児クラス担任を中心にできる範囲で参加しました。小学校は、1 年生担任を多く経験した先生もいれば、全く経験のない先生もいます。その中で、誰もが 1 年生を担当した時に、今までの子どもの成長をつなげられるように園での学びを知ることや、どのように保幼小が連携していかなければならないのか考える機会をもつことが大切です。そこで、保幼小連携担当の先生が、実践を発表する研修を行いました。



発表後は、小グループで園と小学校の先生と一緒に話をする機会を設け、日頃の悩みや、子どもの様子などを語り合うことで、先生がつながることができました。保幼小連携についての実践発表が難しいようであれば、1 回目の時に「入学してからの生活について」、2 回目に「幼児期の遊びを生かした授業について」など内容を変えながら行うこともできると思いました。

(2) 小学校入学から学校生活に慣れるまでの 1 年生の生活について

園の先生は、入学してから子どもたちがどのように過ごしているのか、知る機会がありません。入学してから学校生活に慣れるまでの様子を、スタートカリキュラムに基づいて、1 年生担任に話をしてもらい、その話を踏まえて小グループで意見交流しました。そこでは、小学校での課題や、園との環境の違いからくる子どもの困り感について共有したり、話をする中で互いの考えを知ったりすることなどができ、今後の取組について考えるきっかけとなりました。

(3) 授業参観・協議

2 学期には、国語科の授業を参観して、授業後に協議を行いました。「くじらぐも」の物語文の学習で、くじらぐもに乗って空を旅する中、どこに行くかや、何が見えたかを想像しました。「町ってどんなところ？言葉で説明できる？」という発問に、「家がいっぱいあるところ。」「電車が通っているところ。」など、町について子どもなりに考えたことを説明し、みんなが同じイメージをもつことができていました。園でも振り返りなどを言葉で説明する機会がたくさんあります。自分の思いを言葉で表現する難しさが協議でも話題となりました。参観するだけでなく、協議も行うことで、今の子どもたちの課題について共通点が見えてくると感じました。

今回は授業参観をしましたが、小学校の先生が園に保育参観に行くなど、互いに行き来し、先生同士の交流が増えてくると、子どもの成長の過程の理解も深まってくると思いました。

くじらぐもの授業



授業後の協議





子どもがつながる

子ども同士のつながりが、子どもの育ちと学びを豊かにします。



Q1 交流活動のよさは何ですか？

A1. 子どもの育ちと学びを豊かにするとともに、教職員にとってもよさがあります。

だれに	どのようなよさがあるか
園児	5領域のねらいや内容が充実する。 小学校の「人・もの・こと」に親しみをもつ。 園の遊びの中で、今までになかった遊びや遊び方の発想が生まれる。
小学生	各教科等の目標や内容が充実する。 自分の成長に気付く。 遊びや関わり方を工夫するようになる。
教職員	子どもの発達を知ることで、子ども理解が深まる。 互いの教育及び保育を理解することで、自身の教育観が広がる。 子どもの姿から教育及び保育を充実させることができる。



Q2 交流活動を行う上での留意点は？

A2. 「どちらにとっても学びがあること」と「継続的に取り組むこと」を意識しましょう。

○「どちらにとっても学びがあること」

交流することのよさを踏まえ、園、小学校がそれぞれ活動のねらいを明確にして、一緒に内容や役割分担等の計画を立てます。特に、園児がお客様にならないようにすることに注意が必要です。そのためにも、交流の中では、子どもたちを集めて先生が説明する時間を少なくし、活動の時間を多くしましょう。

○「継続的に取り組むこと」

子ども同士が関わる時間を確保し、交流を重ねることで、子どもにとって楽しさが増し、思いや願いが生まれます。交流が日常のものになればよいです。「自然体での交流」をめざしましょう。交流のための練習は必要ありません。練習しなくても、「架け橋期のカリキュラム」の実践により、子どもたちは十分に力を発揮します。



Q3 園と小学校が遠いのでなかなか交流ができないのですが、どうしたらよいでしょうか？

A3. 地域や学校の実態を踏まえ、持続可能な方法を考えましょう。おたよりや手紙の交換、制作物の展示、Web 会議システムを活用しての交流会などを行ってみてはいかがでしょうか。手紙が届く、声を聞く、顔を見るだけでも、子どもたちはワクワクするものです。



複数の園と小学校で交流するのは大変だと思いますが、どうしたらよいでしょうか。

A4. 交流活動を充実させるために様々な事例を参考にするとよいです。

例① 入学者数や歩いて行ける距離等をもとに、相手(1~2園もしくは校)を決めて交流している地域があります。架け橋期のカリキュラムも同様に相手を決めて作成しています。

例② 小学校が複数学級ある場合、1組は〇〇幼稚園、2組は△△保育所、3組は□□こども園…など、担当園を決めて、年間を通して交流している園・小学校もあります。



交流活動後の留意点は？

A5. 子どもたちに活動を通して学んだことを意識化する声掛けをしたり、それぞれの教育及び保育の中で活動を発展させたりすることが大切です。

また、交流の質を高めるために、振り返りを十分に行い、次のように交流の幅を広げていくことも検討してみてください。

例① 5歳児と1年生との間だけでなく、様々な子どもたちと交流を検討

→ 5歳児と5年生との交流は、次年度には1年生と6年生に

例② 5歳児と1年生の担任だけでなく、様々な学年の教職員の参加を検討

→ 様々な学年の交流活動や、養護教諭や栄養教諭等との関わりを年間計画に

例③ 交流活動に保護者・地域の人を巻き込む。

→ 保護者・地域の人も参加できる行事を活用して、参観するだけでなく参加型の交流を



STEP 2

「子どもがつながる」事例

日常的で簡単な 何度も

身近に感じよう！

～小学校ってどんなところ！？～

- ①執筆者の所属：幼稚園
- ②園児数：49人
- ③連携校数：1校
- ④連携の現状：年4回の計画的な交流活動に加え、日常的な交流を行っています。
- ⑤執筆者の一言：5歳児が日常的に小学校を訪問し、見学や施設を利用することで、小学校へ親近感をもつことができます。

1 ねらい

小学校の様子を知ることで、小学校への親しみを感じたり、入学への期待を高めたりする。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

5歳児（19人）、☆5歳児クラス担任

栄養教諭、養護教諭、☆保幼小連携担当者等

小学校

3 時期

5月～1月

子どもに経験してほしい活動を精査し、また、日時は柔軟に対応できるようにすることで、学校を訪問しやすくなります。

4 内容・時間

小学校の校内見学

- ・トイレを使用する（10分）
- ・校庭で遊ぶ（30分）
- ・給食室、保健室、校長室、購買部等の見学（5～10分）
- ・図書室見学（30分）

小学校の授業や行事の見学

- ・運動会練習、水泳学習の見学等（45分）
- ・選書会のブックトークへの参加（30分）
- ・マラソン大会（試走）の応援（15分）

小学校の栄養教諭や養護教諭の話聞く

- ・食育指導（30分）
- ・歯磨き指導（30分）

5 取組を充実させるためのポイント

- 小学校と隣接しているというメリットを生かし、日常的に小学校を訪問し、小学校の行事や施設について知ったり、教職員と触れ合ったりする。
- 日時は柔軟に対応する。
- 事前に子どもに経験してほしい活動を精査し、毎月やり取りをしている行事予定表で確認したり、授業内容を問い合わせたりする。
- 小学校を訪問したときの子ども様子を教職員間で振り返り、学校訪問の計画を考えたり、園生活で生かせることなどを話し合ったりする。
- 栄養教諭や養護教諭には、日頃の子どもの様子を伝え、実態を考慮した上で、話してもらう内容を事前に相談する。

年間計画に組み込まれている子ども同士の交流活動とは別に、より小学校を身近に感じることができるような交流を考えました。

STEP 2

6 取組の実際

(1) 小学校の校内見学

トイレの使用 小学校と園のトイレの環境の違いに戸惑う子どもが多いことから、入学後も安心してトイレに行けるよう、小学校を訪問した際は、毎回、トイレを使用しました。「すこし暗いね。」「トイレの数が少ないね。」など違いを感じていましたが、回を重ねるごとに使い方がスムーズになってきました。また、園と小学校が使っている手洗い用石鹸が異なっていたことから、様々なタイプの石鹸を使用することを目的に、2 学期より、5 歳児は小学校で使っている手洗い用石鹸を使用するようにしました。さらに、トイレの使用に関する子どもの思いを園と小学校とで共通理解しました。

(2) 小学校の授業や行事の見学

運動会の練習 小学校の運動会の練習を 3 回見学しました。広いトラックを走ること、小学校は児童の人数がとても多いことなどを知ることができました。また、園の運動会でも 5 歳児が「玉入れ」をすることを予定していたため、1、2 年生の「玉入れ」の練習を見学することで、自分たちの運動会を楽しみにする様子も見られました。そして小学校が振替休日の時に校庭を使わせてもらい、実際にトラックを走る経験もできました。



2 学期には、5 歳児が運動会で踊るダンスを 1 年生が見学に来てくれました。いつも以上に張り切って踊る様子が見られ、また 1 年生に褒めてもらったことで、自信をもつことができました。

ブックトークへの参加・給食室見学 体育館で行われた選書会のブックトーク(本の紹介)や 1 年生が本を選ぶ様子を見学しました。その後、栄養教諭の先生に給食室を案内してもらい、大きな釜やしゃもじ、調理の様子などを見学しました。その後の給食では、苦手な野菜を残さず食べたり、おかわりをしたりする姿が見られました。

プール・水泳学習見学 プールを実際に見学することにより、プールの大きさやシャワーの水量など、園との違いを知ることができました。

マラソン大会(試走)の応援 1、2 年生の走る様子を応援しました。大きな声で声援を送ったり、ポンポンを振って応援したりしました。小学生も園児の応援に応え、走るスピードを上げたり、笑顔を見せたりしていました。

(3) 小学校の栄養教諭や養護教諭の話を聞く

社会見学で 1 年生が教室を使用しないときに、机と椅子に座って教室の雰囲気を味わいました。栄養教諭の先生に食育指導をしてもらい、授業体験をしました。子どもたちは、緊張した様子でしたが、姿勢よく座り、真剣に話を聞きました。栄養教諭の先生に教えてもらった 3 つの食品群「赤、緑、黄」について興味・関心をもちました。その後、園でも給食当番がボードに表示されている食べ物の 3 つの色を確認するようになりました。



今後も継続的に小学校を訪問できるようにするためには、教職員同士が顔見知りになり、気軽に話せる関係にあることが必要です。そのため、連携担当者だけでなく、多くの教職員が連携に関わり、教職員の異動があっても良好な関係が継続できるようにしていきたいと考えています。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

就学を見据えて 複数学年での交流

待っているよ！「小学校で遊ぼう」

- ①執筆者の所属：小学校
- ②児童数：518人
- ③連携園数：6園（今回は2園の取組を紹介）
- ④連携の現状：年1回の交流をしています。
- ⑤執筆者の一言：園児が小学校の複数学年と交流を行うことで、小学校への親近感を高めることができます。

1 ねらい

小学生との交流を通して、小学校への憧れの気持ちや親近感をもつことができるようにする。

自分たちが楽しむ中で、園児の存在を大切にし、思いやりの心を育むとともに、進級に向けての意識を高める。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

近隣の保育所・幼稚園の5歳児
5歳児クラス担任等

5年生と5年生担任、1年生と1年生担任
☆保幼小連携の担当者等

3 時期

11月～2月

複数学年で行うことで、5歳児が小学校をより身近に感じられます！

4 内容・時間

1年生と5歳児の交流(45分)

- 「みんなであそぼう」
- ・1年生と園児と一緒に、新聞じゃんけんやしっぽ取りなどの遊びを通して触れ合う。(40分)
 - ・気づきや感想を交流する。(5分)

5年生と5歳児の交流(45分)

- 「みんなであそぼう」
- ・グループごとに手遊びをしたり、学校を探検したりする。(40分)
 - ・気づきや感想を交流する。(5分)

5 取組を充実させるためのポイント

- 保幼小の先生同士のつながりをつくり、視点をもって交流学習が行えるように打合せの場と振り返りの場を設定する。
- 1学級1園との交流を行う。1年生と交流した園は、次年度に5年生と交流する。（本校では1年生3クラス、5年生3クラスとで6園と継続的に交流を行っている。）
- 担任同士が子どもの様子をもとに話し合い、内容を定める。

小学校区内に複数の園があるときには、学級ごとに分かれて交流します！！負担なく、かつ全校で関わる人を増やすことができます！！

STEP 2

6 取組の実際

(1) 担任や主任等を招いた打合せ会の実施

保幼小交流会に向けて、6 学級と 6 園とで事前の打ち合わせ会を小学校で開きました。この会の目的は 2 点あります。1 点目は先生同士のつながりをつくることです。直接情報交換をする中で、先生同士のつながりをつくることができました。2 点目は、思いや願いを共有することです。子どもたちの様子や交流会への思いや願いを共有し、協働して交流会を計画することができました。

子どもの姿を
共有



思いや願いを
共有



(2) 交流会 (6 園のうち、2 園の取組を紹介)

1 年生27名と5 歳児23名との交流

新聞じゃんけん



じゃんけんをして、負けたら新聞を半分に折りたたみます。5回負けたら終わりです。

ここがポイント!

はじめのゲームは1対1のように少人数での遊びからスタートすることで1年生も5歳児も安心できます。ゲームの前に自己紹介をするとよいです。

その他・しっぽ取り、プレゼント交換、トンネルくぐり



5 年生32名と5 歳児23名との交流

手遊び



保育園の先生の進行で、わらべ歌を楽しみました。

- ・おてらのおしょうさん
- ・やなぎの木の下で
- ・きゅうりができた
- ・かまきりマッサージ

学校紹介

園児のリクエストで選曲!!



ここがポイント!

タブレット端末を使って、学校の様子を紹介した後、実際に学校内を探検しました。実際に体育館や教室を見て回り、小学校の様子を感じることができたようです。

交流を通して、5 歳児は小学校への親近感を、小学生は思いやりの心をもつことができました。

(3) 来年度へ向けた振り返りの会を設定

交流会実施後は、振り返りの会を設け、来年度への取組についても意見を交換しました。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

就学を見据えて 合同会議

子どもが主体的に動いて わくわくな学校探検

- ①執筆者の所属：幼保連携型認定こども園
- ②園児数：120人
- ③連携校数：2校（今回は1校）
- ④連携の現状：年4回の合同会議を行っています。
- ⑤執筆者の一言：小学校が特別な場所ではなく身近な場所になることで、入学に期待を膨らませることができます。

1 ねらい

小学生との触れ合いを楽しみながら参加し、1年生や小学校の先生と交流をすることで、小学校生活に期待がもてるようにする。

相手意識をもって5歳児に接し、関わることの楽しさや自分の成長に気付くとともに、これからの成長に願いをもって生活することができるようにする。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

校区内保育園・幼稚園・こども園
園長(3人)、主任(1人)、☆連携担当者
5歳児クラス担任(3人)、5歳児(60人)

校長、教頭、教務
☆連携担当者(1年生担任)
1年生(24人)

3 時期

2学期半ば(10月)

4月ごろに大まかな打合せをしています。

4 内容・時間

事前打合せ<実施日2週間前>(60分)

- ・当日の交流内容を話し合う。
- ・小学校側から提案された交流内容について、昨年の反省などを生かしながら参加者全員で意見交換をし、内容を決定する。

はじめの会(5分程度)

- ・子どもたちの緊張を解いたり楽しい雰囲気をつくったりするために園の先生たちと一緒に体を動かしたり歌を歌ったりする。

学校探検(50分)

- ・子どもたちは小学生を含む各園合同のグループに分かれて活動する。
- ・小学校の先生たちは校内各場所で待機して、説明をする。園の先生たちは各グループの見守りをする。

終わりの会(5分程度)

- ・園からのお礼の挨拶をし、小学生に見送られて終了する。

5 取組を充実させるためのポイント

- 小学校の先生に5歳児の実態、様子を知ってもらう。また、交流内容についても互いが意見交換しやすいよう話し合いの機会、場所をもつようにする。
- 交流後に振り返りの機会をもち、今回限りとせず、次回の交流につなげていくようにする。
- 当該年度中に、次年度の具体的な実施計画を立てておくようにする。

STEP 2

6 取組の実際

(1) 事前合同会議(実施 2 週間前)

小学校側から「秋祭り」での交流のお誘いを受けましたが、園の子どもたちが“お客さん”になって受動的に参加をする会ではなく、主体的に参加する交流会にしようとの意見を出しました。また、園の子どもたちの緊張感や不安感を軽減させる方法として、はじめの会ではこども園の先生が日常的に園で行っている手遊びをしたり、みんなで歌を歌ったり、おわりの会では保育園の先生や子どもたちが挨拶をして、場や気持ちを和ませるようになりようとの意見もあり、当日の計画に盛り込み、実施することになりました。



(2) 当日の活動

1 年生と 5 歳児の混合グループ(1 年生 3 人と 5 歳児 5、6 人)で、校舎内(音楽室・理科室・家庭科室・図書室・体育館・1 年生教室)の探検をしました。1 年生教室では 1 年生が自分の机に座らせてくれたり、ランドセルを背負わせてくれたりしました。その他の教室には小学校の先生が待機していて、その教室にあるものの説明を聞き、実際に体験をすることで小学校に興味津々の様子が見られました。また、グループごとに学校探検カードをもち、小学生がリーダーになりながら次に回る場所を話し合い、スタンプラリー形式で回った場所にシールを貼っていきました。園の子どもたちはわくわく気分楽しんでおり、小学校への親近感が高まりました。

事前に交流する機会をもったことで、園児同士が顔見知りになり、小学校での交流を楽しみにしていました。また、夏に小学校のプールで遊ばせてもらった時の経験から校舎にも興味をもっていため、学校探検に期待して参加していました。



小学生がランドセルの中身を入れてくれて重さを知ることができました。

(3) 振り返り

実際に参加した先生が「期日」「内容」「その他」の項目について回答するアンケートを行いました。内容は、改善点や園・小学校の子どもたちがもっと主体的に関わることのできる活動にするための方法などでした。

本年度末には来年度の予定を決めています。

(4) これからに向けて

春・夏・秋の合同会議の実施により、園・小学校の先生間で、まず顔見知りになる、互いの立場を知る、子どもたちへの願いや関わりを知る等、相互理解を深めることができました。また、実際の交流についてもそれぞれが意見を出し合い、互いの立場を尊重し合いながら計画を立てることができました。さらに今年度最後の冬の合同会議の際に来年度の具体的な実施計画を立てることができました。

来年度の合同会議では本年度の振り返りを生かして、交流活動を通してそれぞれの立場から子どもの姿やねらいを立て、それぞれのねらいが実現できるように、園の子どもたちが受動的な交流の会ではなく、主体的に参加することのできる交流会が実施できる話し合いになればよいと思います。また、負担を軽減するためにも、それぞれが持ち回りで取りまとめをしたり、Web での会議を取り入れたりするなどの提案もしようと考えています。以後、状況が変わっても(人事異動など)子どもたちの育ちが繋がっていくようにこの取組を続けていきたいと思っています。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

地域 行事

幼保小ふれあい活動でつながろう

- ①執筆者の所属：幼稚園（保育所併設）
- ②園児数：約30人
- ③連携園・校数：4校9園（今回は1校）
- ④連携の現状：年に3回「幼保小ふれあい活動」を行っています。
- ⑤執筆者の一言：立地を生かして交流を充実させています。

1 ねらい

小学生に対して親しみの気持ちを持ちながら、秋の探索や言葉遊びを楽しむ。

園児に対して思いやりの気持ちを持ちながら、秋の探索や言葉遊びを楽しむ。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

4・5歳児（18人）、園長、主任
☆4・5歳児クラス担任

1・2年生（26人）、1・2年生担任

3 時期

10月下旬

隣接している地域の施設で活動を行うことで、地域の方との関わりも生まれます。

4 内容・時間

幼保小ふれあい活動でつながろう（140分）

※園と小学校、地域の施設が隣接している環境にある。

- (1) 1・2年生と4・5歳児が縦割りグループに分かれ、ウォークラリーを行う。
- (2) 皆で協力して各ポイントにある課題やクイズに挑戦する。
- (3) ウォークラリーで見つけた秋の自然物を使って制作をする。

5 取組を充実させるためのポイント

- 園と小学校、地域の施設が隣接していることを生かした交流の方法を保幼小で一緒に考え、行うようにする。
- 交流の前には、子どもの様子や計画について対話する場をもち、ねらいや内容を確認し合う。交流後は振り返りを行い、次回の交流へ生かしていく。

交流には対話が大切です！
交流の前後には先生同士が本音で対話できるようにしたいです。

STEP 2

6 取組の実際

(1) 事前打合せ

この地域では、年に3回「幼保小ふれあい活動」を実施しています。学期に1回のペースで開催しており、各回の担当はそれぞれの担任が持ち回りで行っています。

今回は担当である5歳児クラスの担任が計画を作成し、それに基づいて活動日の約3週間前に1・2年生の担任と意見を交わしました。ねらいや子どもたちが今どんなことに興味があるのか等を互いに話し合い、当日の内容を決めていきました。

秋のクイズなら自然に関心をもつことができ、園の子どもも分かるので、どうでしょうか？



(2) ふれあい活動当日

縦割り班でウォークラリーを行いました。近隣にある地域の施設を快く貸していただき、施設内でクイズや課題に挑戦しました。小学生は園の子どもたちを気にかけて、優しく接しようと張り切る気持ちと、自分が楽しみたいけれど、そればかりではいけないという気持ちの中で葛藤している姿がありました。一方、園の子どもたちは、小学生は優しく、いろいろなことができるという憧れの気持ちを抱き、年上の人から優しくされる経験を存分に味わっていました。それぞれの立場で、様々な感情体験をし、気持ちを調整したり、折り合いをつけたりすることを学びました。

また、クイズを通して、園の子どもたちは、秋の自然やそれを表す言葉に関心をもち、小学生は言葉を使って、伝えたいことを工夫して伝えようとする姿が見られました。

また、施設の方の話を聞く機会もあり、地域の方や施設に親しみをもつことができました。地域全体で子どもたちを見守り育てていく基盤がつくられています。



なべなべそこぬけをするよ！僕たちのところを通ってね！



次はここに行ってみよう。

この5文字でできる秋の昆虫は何か？



言葉クイズおもしろい！ぼくたちも考えてみたい。

(3) 振り返り

各縦割りグループに先生が一人ずつ入って一緒に行動したので、互いの育ちや発達がよく見えました。子どもたちはそれぞれが役割をもって行動する中で、思いやりの気持ちや親しみの気持ちをもつようになっていくことを確認し合いました。また、子どもの姿からこの時期の子どもにとって、クイズや課題の内容がどうだったのかを振り返るよい機会となりました。隣接している環境で、気軽に先生同士が対話できることはとても恵まれている環境なので、今後も生かしていきたいです。

STEP 2

「子どもがつながる」事例

地域 行事

オープンキャンパスへ行こう

- ①執筆者の所属：保育所
- ②園児数：約 150 人
- ③連携園・校数：3 校 8 園（今回は 1 校）
- ④連携の現状：幼保小連絡協議会を年に数回開催しています。
- ⑤執筆者の一言：小学校を見学することで 5 歳児が安心感をもてます。

1 ねらい

小学生と一緒に遊んだり、授業を見学したりすることで小学校の雰囲気を感じ、就学への期待を膨らませる。

園児に学校の生活について教えたり、一緒に遊んだりすることで思いやりの気持ちを育てるとともに、進級への意欲を高める。

園

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

小学校

5 歳児 (32 人)、5 歳児クラス担任、主任

1 年生 (130 人)、1 年生担任、
☆校長

3 時期

10月下旬

4 内容・時間

オープンキャンパスへ行こう(60分)

※園は小学校まで徒歩約30分の距離にある。

5 歳児が小学校へ行き、1 年生の授業風景を見学したり、休み時間に一緒に遊んだりしながら交流をする。

休み時間を利用することで、自然な交流が行えます！

5 取組を充実させるためのポイント

- 1 年生の普段の授業を 5 歳児が参観したり、休み時間に一緒に遊んだりするなど、無理なく自然体で行える交流の方法を保幼小で一緒に考えるようにする。
- 交流の前に、ねらいや内容について対話する場をもつ。
- 交流後は振り返りを行い、子どもの姿を十分に共有し、次回への交流に活かしていく。

5 歳児と 1 年生それぞれのねらいを明確にしておくことが大切です！

STEP 2

6 取組の実際

(1) 事前打合せ

本市では中学校区ごとにブロックに分かれて幼保小連絡協議会を年に数回開催しています。協議会ではそれぞれの子どもの姿や課題について話し合い、研究テーマを決めたり、持ち回りで公開保育や授業を行い、それに基づいて意見を交換し合ったりしています。幼保小の円滑な接続、連携のあり方について学び合う会となっています。この地域は市の中心部に位置し、市内の中では子どもの数が多い地域です。今回行ったオープンキャンパスについては、1回目の幼保小連絡協議会で小学校より提案がありました。

(2) オープンキャンパス当日

学校までの道中は、小学校について知っていることを友達と話しながら楽しみに歩いていた子どもたちですが、一歩小学校へ足を踏み入ると、園とは違う雰囲気や授業風景に緊張気味で、クラスへ入る足どりが重い子どももいました。授業の様子を見て「難しそう…。」「勉強嫌だな。」という素直な声もありました。しかし、小学校では図画工作科や音楽科など、いろいろな楽しい授業があることを知り安心していました。また、休み時間を一緒に過ごす中で小学生が遊び方を優しく教えてくれたので身近な存在となり、小学校は楽しい場所だと感じることができました。チャイムの音で、一斉に教室に戻る様子に圧倒される姿もありましたが、それもよい経験となり、小学校の過ごし方をひとつ知ることができました。学校内の様々な場所、授業を実際に見聞きすることで不安が軽減し、就学への期待につながりました。



学校はこんな風に勉強するのだね。



落ちたらいけないから、手を離さないでね！



やり方を教えてあげるね！



(3) 振り返り

オープンキャンパス後の幼保小連絡協議会で、参加した園・学校が感想や気づきを発表しました。今後の課題は、事前の話合いを重ね、お互いのねらいや子どもの姿を共有し、交流の日にそれぞれの子どもたちとどのように関わっていくのか、どのような育ちを願うのかを深めていくことです。

また、事後の振り返りで挙げた各々が感じた子どもの育ちや課題を次回に生かしていき、数十年間続いている幼保小連絡協議会が、より有意義なものになるようにしていきたいです。



休み時間に一緒に遊ぶことができ5歳児はとても嬉しかったようです。

STEP 3

育ちと学びがつながる

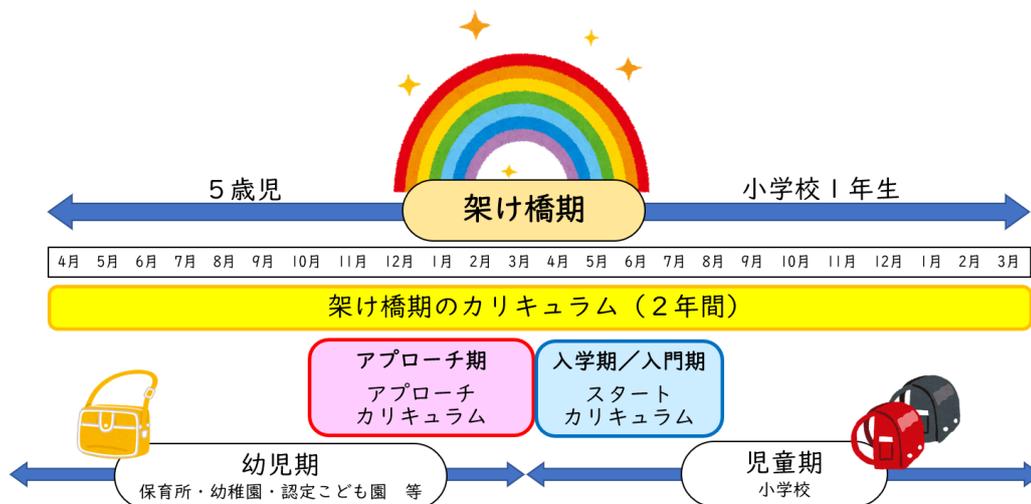
保幼小のつながりを意識して「日々の教育及び保育」を行っていくことで、子どもの育ちと学びをつなげていきましょう。詳しくはこちら↓



架け橋期のカリキュラムとは何ですか？
アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムとの違いは？



A1. 大きく違うのはカリキュラムの期間や作成者です。



カリキュラム	期間	作成者	内容
架け橋期	5歳児～小学校1年生の2年間	園と小学校が協働	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を手掛かりとし、育成をめざす資質・能力を視野に入れたもの。
アプローチ	就学前 5～6か月間が目安	園	就学前の幼児が円滑に小学校の生活や学習に適應できるようにするとともに、遊びや生活から得た経験を生かして学習や生活に意欲的に取り組んでいけるように工夫したもの。
スタート	入学後 4か月間が目安	小学校	幼児期の遊びや生活を通じた育ちと学びを基盤として主体的に自己を發揮し、新しい学校生活を創り出し、円滑に移行していくためのもの。



架け橋期のカリキュラムを作成すると、どんなよいことがありますか？

A2. 保幼小が共通の視点を持ち、協働して作成することにより、子どもの育ちと学びの連続が保障されます。また、計画的な実践とともに、教育及び保育を見直すことが習慣になります。さらに、担当が変わっても一貫性のある教育活動を行うことができます。



行政として、架け橋期のカリキュラムの作成や改善のため、園や小学校へ、どのように働きかけたらよいでしょうか？

A3. 教育委員会や市町の保育主管課は、小学校区にカリキュラム開発会議の設置を促してみましよう。会議自体は学校運営協議会や園・校長連絡会等、既存のものを利用します。



どんな視点で話し合えばよいですか？

A4. まずは子どもたちの実際の姿から、めざす子ども像について話し合ってみましよう。めざす子ども像が決まると、カリキュラムに表すものが整理されるとともに、カリキュラムに特色が出て、作成の意義が増します。視点についてはリーフレット「はじめのいっぽ」を参考にしてみてください。

詳しくはこちら→



話し合いの際は何を参考にしたらよいですか？

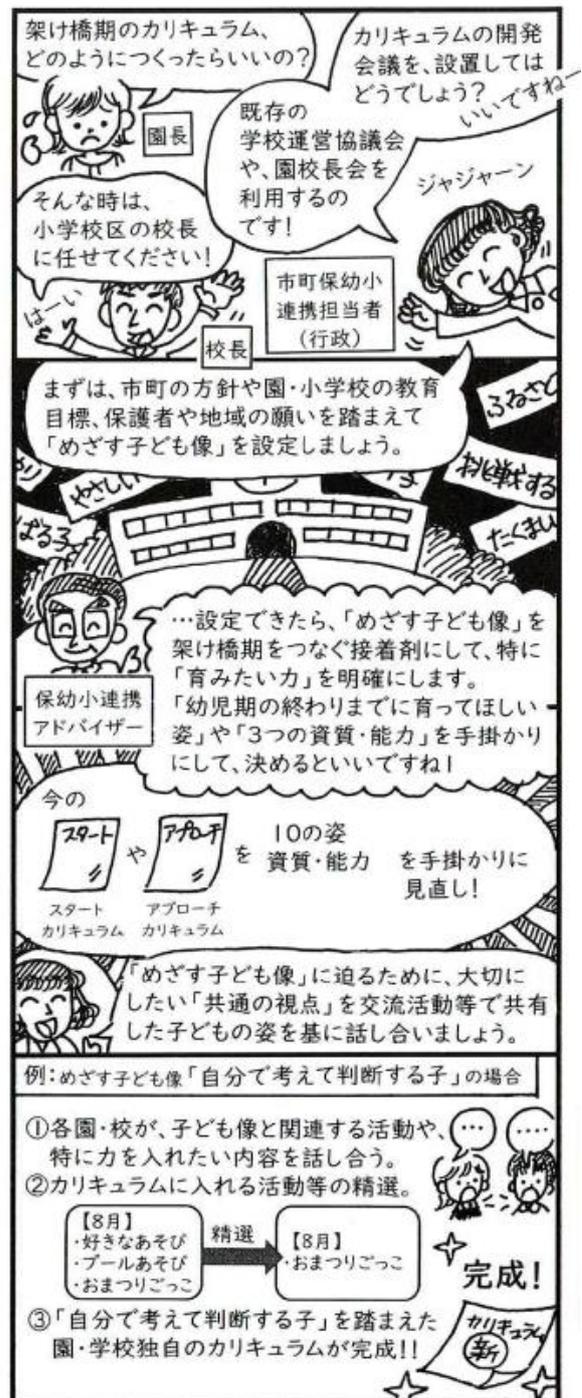
A5. 例① 市町の教育目標や園・学校目標、保育・教育方針がわかるもの（保育全体計画やランドデザイン等）…めざす子ども像について話し合うときに役立ちます。

例② アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム…育ちや学びのつながりや指導上の配慮事項を考えるのに役立ちます。



地域や保護者への啓発を進めるためには？

A6. 「保幼小連携」で行ったこととそのよさを様々な方法でどんどん発信ましよう。例えば、園・学校だよりや懇談会のときなどに伝えることができます。また、就学時健康診断の際に、保護者向けに幼児教育と小学校教育のつながりに関する講演会を開いている小学校もあります。



STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

教育及び保育の共有 つながる学び

「めざす子ども像」

「育みたい資質・能力」を視点に
つながろう！

- ①執筆者の所属：小学校
- ②児童数：600人
- ③連携園数：十数園（今回は1園）
- ④連携の現状：年に2回協議会を実施しています。交流は年に1～2回程度です。
- ⑤執筆者の一言：子どもたちの姿を語り合うことで先生同士がつながりましょう！

1 ねらい

- 幼児教育及び保育と小学校教育のめざす資質・能力のつながりを知る。
- 保育・授業参観での子どもたちの姿や園・小学校での取組を共有しながら「どのような子どもを育てたいか」を参加者で話し合うことにより、互いの教育及び保育で大切にしていることを共有しながら「めざす子ども像」を焦点化していく。
- 共通理解した「めざす子ども像」をもとに、重点的に育みたい資質・能力について話し合うことを通して、それぞれの教育及び保育に生かす。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

園長、主任、☆5歳児クラス担任等

管理職の先生に助言をいただけると心強いですね。

校長・教頭などの管理職、☆保幼小連携の担当者、1年生担任、養護教諭
☆教務主任等

小学校

3 時期

入学から1学期終了までに
(事例は11月だが、入学した子どもたちの様子を参観した後にできるとよい。)



4 話合いの流れ

(1) 保育・授業参観を行った場合 (保育・授業の後に50分)

保育・授業参観を通して、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を視点に互いの育ちや学びが繋がっていると思うところを出し合ったり、自分の園・小学校での取組や日々大切にしていることを紹介し合ったりする。

- (例) ・園での保育が小学校の学びにつながっている、と感じたところは？
- ・園・小学校それぞれの取組の共通点は？

保育・授業参観を行わない場合 (各園・校で5～10分で説明した後に50分)

それぞれの園・小学校の保育・教育目標などを踏まえながら、自分の園・小学校での取組や日々大切にしていることを共有する。

- (2) それぞれの取組や日々大切にしていることの中から、共通する「めざす子ども像」を焦点化していく。(20分)

詳しくはこちら→

写真や映像、文字資料などがあると伝わりやすいです。

STEP 3

(3) 「めざす子ども像」が焦点化されてきたら、それを実現するために「育みたい資質・能力」を具体化していき、園・小学校の先生が

①既に取り組んでいること

②新しくできそうな取組

を考えて紹介していく。(30分)

(例) ・子どもがのびのびと自分の思いを表現できる場を意識的に設定する。

・園・小学校それぞれが発達に応じた「振り返り」をしていく。

・子どもの意欲・関心が高まるような環境設定や保育や授業の導入の工夫をする。

・自分たちで考えて思いを実現していく場の設定を工夫する。 など

5 話し合いを充実させるためのポイント

同僚性が生まれるように、自己紹介の工夫もしてみたいですね。

○ 架け橋期にめざす子ども像を共有する大事な機会なので、時間的な余裕をもつことが大事。できるだけ、いろいろな園・小学校の教職員が意見を言いやすいような、温かい雰囲気づくりをする。

○ 写真や映像、文字資料などで子どもの様子を紹介し、子どものよさを話し合い、昨年度、園がどのようなことに重点を置いて保育を行っていたのかを共有すると、それぞれの教育及び保育に共通点が見え、今後も支援をつなげていこうと再認識できる。

○ それぞれの保育計画や年間カリキュラム、指導計画などを持ち寄り、園・小学校で「日々大切にしていること」を紹介し合いながら「めざす子ども像」「(重点的に育てたい)資質・能力」について、つながっているところを共有していく。

教育及び保育で大切にしていることを共有し合います。

○ 1つの小学校に様々な園から入学してくる状況がある中、その年に集まった園と小学校のカリキュラムや大事にしていることを話し合いながら、「めざす子ども像」を焦点化していき、その姿に近付けるために、何をしていくかが明確化されるとよい。小学校のカリキュラムに合わせるのではなく、「それぞれ実践から共通するところを探していく」というイメージをもつことが大切である。

○ 話し合いに参加した教職員が復命を確実に行うことが大切。「めざす子ども像」実現のために、自分たちの園・小学校で

①既に取り組んでいること

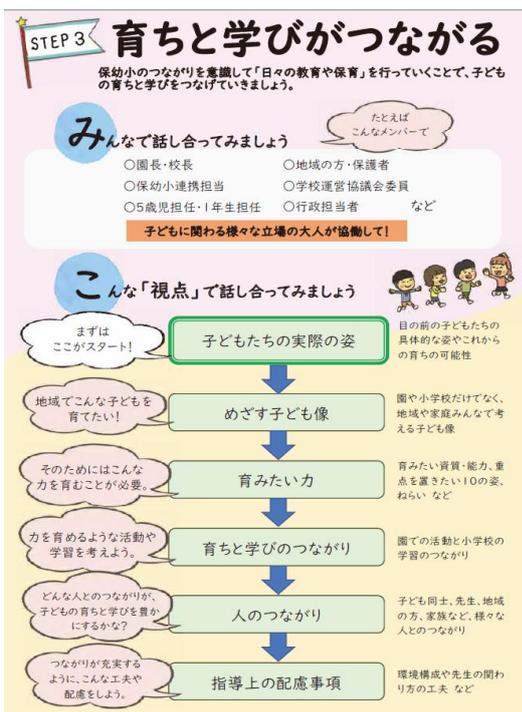
②(無理せず)新しくできそうな取組

は何かを話し合い、教育及び保育に生かす。今の実践できていることを見付け、深めていこうとする方向性が大事。(カリキュラムの見直しも行えるとよい。)



STEP 3

6 話し合いの実際



話し合いは、山口県乳幼児の育ちと学び支援センター作成リーフレットの「はじめのいっぽ」のSTEP3「育ちと学びがにつながる」のページを参考にしながら実施しました。(11月上旬)

まず左下の【流れ】(1)にもあるように、写真などを見せながら、2学期の園の保育や1年生の学習の取組について説明し合いました。園では「選ぶこと」を大切にしたい運動会への取組を中心とした説明があり、1年生の学習では生活科を中心に他教科とつなげた学習をしていることを説明しました。写真などで様子が伝わり、互いが大切にしている教育及び保育への理解につながっていきます。その中で、どちらも「振り返り」を大事にしていることが話題になりました。

【参加メンバー】

- 園** 園長 保育主任
各年齢担当3名
- 小学校** 校長 教務主任
1年生担任3名
保幼小連携担当者

【流れ】

- 校長先生より
- 自己紹介
- (1)子どもたちの様子・今までの教育及び保育を紹介し合う (子どもたちの実際の姿)
- (2)「めざす子ども像」を焦点化する
- (3)子ども像を実現するため「育みたい力」について話し合ったり、力を育てるために既に行っていることを見つたりする
- 振り返り
- 園長先生より

次に(2)で「めざす子ども像(○)」とそれをめざすために必要な「育みたい力(・)」は何かを話し合いました。

その中で次のような内容が出てきました。

- 「自分の思いを伝えることができる子ども」
・話す・聞く・待つ力 ・言葉の力
・自分の気持ちを自覚する力
- 「思いやりがあり友達のことを理解しようとする子」「相手の立場や気持ちを想像して行動できる子」
・コミュニケーション能力 ・気付く力
- 「最後までやり抜く子」
・自分の行動に責任をもつ力
・自分で考え、選び、粘り強くやり遂げる力 など

「めざす子ども像」は、中学校区の学校・地域連携カリキュラムにも重なる部分があり、つながりを感じました。協議をしながら互いがめざしている子ども像が焦点化され、
 ◎自分が経験したことや考えたことをのびのびと伝え合うことができる子
 ◎自分たちの課題に向かって友達と最後まで粘り強く取り組もうとする子が挙がってきました。

STEP 3

さらに(3)で、ここから、「育みたい力」を育てるために、今の教育及び保育で既に行っていることはないか、互いに探し出していきました。

	園	小学校
思いを伝える力を付けるために	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話の中で話すことへの安心感をもつことができるようにする。 ・子ども同士をつなぐために集会でインタビューやクイズをする。 ・言葉を引き出すために、話す場を設けたり問いかけたりする。 ・自分の思いを「みんな」が伝える場を設け、それを聞く仲間を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを言語化する支援を行う。 ・自分の思いを表現する場の設定を意識的に行う。 ・交流活動を仕組む。 ・ペア活動を取り入れる。 ・子どもの言葉にこだわって、問い返しをしていき、思いを表出することができるようにする。
思いやりの気持ちをもてるようにするために	<ul style="list-style-type: none"> ・よいことをしたらすぐその場で褒める。 ・思いを受け止め、共感する。 ・子どもを知ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちをクラス全体で共有する。 ・よいことの価値付けを行う。 ・自分との違いに気づき、相手のことを受け止められるようにする。
最後までやりぬく力、主体的に学ぶ姿を育てるために	<ul style="list-style-type: none"> ・「選ぶこと」を大切にする。 ・手本を見せることで見通しをもち、自信をもって活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動を行う。(大切にする) ・自信をもって活動するためにルーティン化して見通しをもてるようにする。

この話し合いの中から「めざす子ども像」と「育みたい力」「今の教育及び保育で実践していること」などを整理し、園と小学校で日々の教育及び保育やカリキュラムづくりに生かしていくこと、「新しく取り組みそうなこと」は園や小学校に持ち帰って話し合おうということになりました。

【話し合いを振り返って】

園の先生と小学校の先生と一緒に話し合う機会を設定し、互いの教育及び保育の様子を知ることができました。特に、「選ぶことを大切にしている」という園の保育は、小学校の先生にとって、「はっ」とする考え方だったように思います。子どもが身に付けていく内容がある中で、学び方にいろいろな選択の場面を設定するのは教科によって難しいかもしれませんが、ぜひ取り入れていきたいと感じました。「相手を知ることが自分たちの仕事を高める」ということに気付いた時間でした。



【アンケートの設問項目】

- 1 互いの実践を聞いて
 - ①よいなと思ったこと
 - ②生かしたいと思ったこと
- 2 話し合いをして改めて考えたこと
 - ①めざす子ども像
 - ②育みたい力
- 3 ①②を実現するのに今取り組んでいることは？
- 4 感想

また、「めざす子ども像」「育みたい力」「今の教育及び保育で実践していること」を一緒に話し合うことによって、より「つながり」を意識することができました。

話し合い後のアンケートでは、互いの理解に加え、「自分たちの教育及び保育について立ち止まって考えることができたこと」が先生方の学びとなっていたようです。

来年度からは、小学校区を中心に連携の会議を行います。今回は1校1園でしたが、これからいろいろな園の先生方とこのような話し合いをして、さらに互いのことを知り、園・小学校の教育及び保育に生かせるような連携の在り方を探していきたいと思っています。

STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

遊びから教科へ

つながりを見つける

園での活動と小学校の学習のつながり

- ①執筆者の所属：認定こども園
- ②園児数：240人
- ③連携園・校：1校1園
- ④連携の現状：年度初めに計画を立て、9回の会議や研修・交流を行っています。
- ⑤執筆者の一言：会議を重ねるごとに先生同士も仲良くなり、相互理解が深まります。

1 ねらい

- 小学校及び園の実態を知り、円滑な接続に向けての子どもの育ちを考える。
- 対話を通して園・小学校の指導法の違いや同じところ、環境設定などについて相互理解を図る。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

保育所：園長、副主任
幼稚園：園長、主任、☆保幼小連携の担当者、
幼児クラス担任（6人）

校長、1年生担任（4人）

小学校

3 時期

夏休み期間中

小学校の授業参観をした後などに
つながりについて共有する時間をもつのもよいかもかもしれません！

4 話合いの流れ

- (1) 幼児期の遊びが小学校教育のどのような場面につながるのか、小学校教育の生活科の内容に着目し、共通点を見つける。
- (2) 小学校側は、ラーニングストーリー※(子どもの育ちの記録)、園側は教科書を見て気付いたことや印象に残ったことを話す。
- (3) 先生の関わり方や言葉かけ、環境設定について共有する。

グループ協議は4～5人の少人数で行うと、質問もしやすく対話が多くなります。

5 話合いを充実させるためのポイント

- グループ協議の時間を十分にとり、対話を通して参加者一人ひとりのいろいろな感じ方や気付きを話し合う。
- 「すごい」「おもしろい」「よいな」とその時に思ったこと・感じたことを伝え合う。
- 園の遊びの中で発見したことや工夫したことが、小学校の教科においてどのように子どもの思考に変化が見られるのか、つながりを見つける。

※ ラーニングストーリーとは

ニュージーランド発祥の、子ども一人ひとりの姿を見取り、観察と記録による「子ども理解」の方法のこと。

5つの視点(興味をもっていること、夢中になっていること、挑戦していること、気持ちを表現していること、自分の役割を果たしていること)をもとに、エピソードと写真を添えて作成する。実践園が採用している。



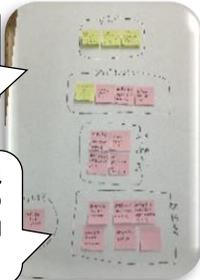
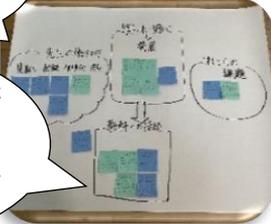
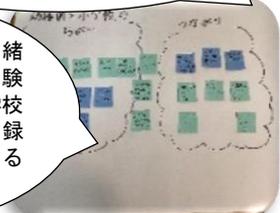
STEP 3

6 話し合いの実際

(1) グループ協議【60分】

- 18人が4つのグループに分かれ、「対話」を通して互いの理解を深めました。
- 園での遊び(植物との関わり)を記録したラーニングストーリーと小学校の生活科の教科書を見て気付いたこと・印象に残ったことを付箋に書いて話し合いました。

(2) 各グループの発表【各グループ3分】

海グループ	川グループ
<p>「すごい!」「おもしろい!」と思ったことを共有しました。その中で園から小学校へのつながりと同じところについて話し合いました。</p> <p>園生活が一人ひとりの思いに添った活動になっていて「すごい!」と感動した。</p> <p>幼児期の遊びの体験の中で触る・見る・嗅いでみることに長けているので多くの気付きが出てくる。得た知識が小学校でも生かされる。</p> 	<p>興味・関心からの発展とその時の先生の働きかけについて共有し、教科への接続のつながりとして話し合いました。</p> <p>園では子どもの活動と共に先生の声掛けや対話も記録されている。</p> <p>園) アサガオを育てる体験から色水遊びへ発展。 小) 観察記録から比べる・見付ける・例えるへレベルアップ。</p> 
山グループ	空グループ
<p>園と小学校の環境づくりの違いや表現の仕方について話し合いました。</p> <p>園生活は自由で題材もたくさん用意されていて、選ぶことができる環境があるからこそ楽しさがある。</p> <p>幼児期のみんなで一緒に植物に触れ合う体験があるからこそ、小学校で一人一鉢を育て記録する中で友達と比べることができる。</p> 	<p>「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の「3つの柱」でグループ分けをして話し合いました。</p> <p>幼児期は遊びの中で学んでいくので興味関心が多くなると思ったが全ての面でつながりを感じた。</p> <p>幼児期の学びや気付きを深めていくには子ども同士の会話やつぶやき・先生の声掛けが大事であることが分かった。</p> 

- 6月の接続会議の中で、共にアサガオを育てているという共通点を見付け、遊びの中での育て方と授業での育て方のつながりを知りたいと興味関心が高まり、研修テーマを設定しました。
- 教科書には仕掛けがあり、子どもたちのつぶやきも書かれているので、図鑑みたいで楽しいという意見が多くありました。今回は小学校の生活科のみを取り上げましたが、いろいろな気付きがあり、幼児期の体験を小学校の体験につなげ、さらに新しい知識を加えて整理することで興味が深まることにつながると思います。言葉で表す場合は国語科、数で表す場合は算数科、形で表す場合は図画工作科と、視点の当て方によって全教科へのつながりに気付くことができました。
- 園と小学校の「違うところ」ではなく「同じところ」を多く認識できたことは互いにとって学びの深い時間になりました。どんな気付き、印象でもよいので、思ったことをみんなで共有し、相互理解していく時間も大切だと教えていただきました。今後は、5歳児クラス・1年生の担任だけでなく、園全体・小学校全体の教職員で非認知能力の育ちの大切さについて理解を深め、情報共有していくことが必要だと思えます。

STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

PDCAで交流活動を充実させよう 同僚性

一緒に振り返りをしませんか？ その日のうちに

地域性を生かした人とのつながり

- ①執筆者の所属：幼稚園
- ②園児数：32人
- ③連携校数：1校
- ④連携の現状：6年以上
- ⑤執筆者の一言：小学校と隣接している立地のもと、園児が小学校の複数学年と交流を行い、教職員同士もつながりを深めています。

1 ねらい

- 園・小学校それぞれのねらいの共有や振り返りを行い、次年度に向けての課題について話し合うことで継続的なPDCAサイクル*を位置付ける。
- 園の先生は子どもの遊びが小学校の学習のどこにつながっていくか、小学校の先生は就学前後の子どもの育ちを捉え、それぞれの指導の工夫に生かすことができるようにする。
- 直接会って話し合うことで、人と人とのつながりを大切にしたい協議の場となるようにする。

2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

園

☆5歳児クラス担任

☆1年生担任

小学校

3 時期

交流活動前後で行うとよい。

短時間でコンパクトに話し合うことが続けていくポイントです。

4 話し合いの流れ

- (1) 交流実施前にそれぞれのねらいやめあての共有を行う。(15分)
- (2) 交流実施後に、写真や映像など具体的な子どもの姿を基に、ねらいや、評価の視点で子どもを捉えながら一緒に振り返りを行う。次年度に向けての課題等を話し合い、記録を残しておく。(20分)

5 話し合いを充実させるためのポイント

- 互いの園・小学校の子どもを見合うことで相互理解を図り、それぞれのねらいを基に相手の教育及び保育の内容や指導方法を理解し共有できるようにする。
- 交流活動が行われたその日のうちに必ず振り返りの時間をもつ。
- 年度末の合同会議では管理職を含めた話し合いの場をもつ。

※ 交流活動における「PDCAサイクル」とは

- P…Plan(計画) 計画の作成→日程の決定、ねらいやめあてを共有する。
- D…Do(実行) →交流活動を実施する。
- C…Check(評価) →園、小学校の先生が子どもの姿を基に共通の視点で振り返りを行う。
- A…Action(改善) →改善し次年度につなげる。

互いに見えていなかった園児や児童の姿を共有することができます！

この会議内で、次年度の日程を決めています！

STEP 3

6 話合いの実際

(1) 交流活動に当たって

本園は小学校と隣接した立地であることや、長年交流活動が継続的に行われていることなど、先生も子どもも行き来がしやすいという地域性があります。誰が5歳児クラス担任になってもPDCAサイクルを生かした交流ができるようにしていきたいと考え、今年度の交流活動の一部を考えてみました。



(2) Plan (計画)

交流活動の1週間前を目安に互いのねらい、評価の視点などについて共有する場を設け、以下の2点について共通理解を図りました。(5歳児クラス担任・1年生担任)

園児のねらい ○友達と一緒に秋まつりを楽しむ ○作られている物に興味をもって、遊びに参加する

児童のねらい、評価の視点について ○主体性 ○相手軸 ○協力

(3) Do (実行) ~ Check (評価)

交流活動を行った後(子どもの降園後)に集まって、一緒に振り返りを行いました。

5歳児クラス担任の振り返り	1年生担任の振り返り
<p>2つの視点で子どもと振り返りを行った。 視点①どのコーナーが楽しかったか。 視点②園にはないものがあったか。</p> <p>印象に残っているコーナーについては、具体的にどのようなところにおもしろさを感じたかを、自分なりに言葉で伝えることができていた。また、写真を見て振り返りを行うことで、イメージしやすくなった子どももいた。</p> <p>この時期の生活科の授業の中に、園生活の中で経験する様々な遊びが繋がっていると感じた。また、どのコーナーの児童も対園児という意識で関わっていた。</p>	<p>対園児という面で、相手に喜んでもらうことについてもう少し伝えていきたかったが、児童たちが臨機応変に対応できていて感心する場面もあった。</p> <p>対園児だけでなく、グループ内での友達同士の関わりも含めて考えていた。グループにリードできる子がいると、児童に頼ってしまうことが多かったように思う。</p> <p>集めた自然物でいかに遊ぶか、園で工夫しながら遊ぶ経験をしている園児に対して、児童がどのような遊びを考え、表現していくかが必要だと感じた。</p>

(4) Action (改善)

昨年度は取組の時期が早すぎて自然物が集まらなかったため、今年度は、昨年度より1週間遅らせての開催でした。今年度に行った時期の開催がちょうどよいのではないかと考えて、来年度に引き継ぐことを確認しました。

(5) 園で話し合った、交流活動の後、その日のうちに直接会って話し合うことのメリット

- 次の日の保育にすぐ生かすことができ、子どもとの関わりに有効である。
- 子どもの姿を話し合うことで、互いに見えていなかった子どもの姿を共有することができる。
- 話合いの中で、先生たちが互いを知ることができ、同僚性が生まれる。

STEP 3

「育ちと学びがつながる」事例

市の取組

「カリキュラムの見直し・改善」を
視点として話し合おう

- ①執筆者の所属：教育委員会
- ②参加者：55人
- ③市内の園、小学校数：24園、11校
- ④連携の現状：平成21年度から年1回、市が研修会を主催しています。
- ⑤執筆者の一言：行政が保育所・幼稚園・認定こども園等と小学校とのパイプ役を務め、円滑な接続を行っています。

1 ねらい

- 5歳児が、スムーズに小学校生活へ適応していけるようにするために、保育所・幼稚園・認定こども園等と小学校が、幼児教育や小学校教育の内容、家庭・地域における取組について相互に理解し、円滑な接続を図る。
- これまで園生活で経験してきたことや培ってきた力など、就学前の子どもの育ちを小学校の教職員が共有し、就学後の指導の工夫に生かす。[詳しくはこちら→](#)
- 小学校において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を踏まえた指導を行うことにより幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を紡いだ途切れのない教育活動を実施する。



2 参加者（☆：本実践の企画・運営担当者）

- 園(24園) 園長、主任、5歳児クラス担任者等(計29人)
- 小学校(11校) 校長・教頭などの管理職及び保幼小連携の担当者等(計22人)
- 行政機関 ☆教育委員会担当者、保育主管課担当者(計4人)

3 時期

早めに設定することで、顔合わせができ、連携する保幼小で年間の見通しをもつことができます！

市として行う研修会の開催時期：6月 各園・校での協議：夏休み等

4 研修会の流れ

- (1) 市の所管説明(10分) [詳しくはこちら→](#)
- (2) 外部講師による講演(幼児教育アドバイザーや大学の講師等の活用)(50分)
- (3) 交流校区(園と小学校で交流活動を行っている校区)別に協議(35分)
(カリキュラムの見直し・改善、教職員同士の研修や情報交換、園児と児童の交流等)



5 研修会・協議会を充実させるためのポイント

- 担当者が代わってもこれまでの取組状況が分かり、改善の見通しがもてるようにするため、市として統一のカリキュラムの型を使用する。
- 保幼小のつながりを系統的に整理するため、カリキュラムの型をシート1枚にまとめる。
- 円滑な移行に重点を置くため、5歳児11月から1年生7月までの連携カリキュラム(リンクリンクカリキュラムと呼ぶ)とする。
- 育てたい子ども像を共有するため、関係機関(子育て支援課・学校教育課)との連携を図る。
- 学校によっては、複数の園との連携を必要とする場合があることを考慮して、各園と小学校のカリキュラムの作成になることもある。

STEP 3

6 研修会の実際

(1) 市の所管説明(カリキュラム作成の意義やねらい等の確認)

ア 保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領に記載されている円滑な連携・接続について

イ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の概要、連携の必要性について
〈園と小学校の教職員での共通理解事項〉

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
- 到達すべき目標ではないこと(5歳児終了時までには100%実現を求めるものでないこと)
- 小学校入学当初においては、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと



課題や現場のニーズ等を考慮して内容を決めています！

(2) 外部講師による講演

これまで「教育課程と教育・保育の実践」や「支援を必要とする子どもの豊かな学びのために」等と題して講演を行っています。

内容例:具体的な園児の活動の様子から見取る「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等
(講演後に行う、昨年度作成したカリキュラムの見直し・改善の際に参考)

(3) 交流校区別における話し合い

ア 今年度の1年生の様子やアプローチカリキュラム、スタートカリキュラム、週案などの教育課程の情報共有

イ 今年度のカリキュラムについて見直し、今後の計画についての話し合い(P.39参照)

期待する子どもの姿について

- 5歳児については、子どもの実態と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」と照らし合わせ、特に重点を置きたいもの
- 1年生については、1学期間は、児童が学校生活に慣れるための期間として考え、生活科を軸として学習を進めていき、幼児期とのつながりを考えたもの

カリキュラムの作成

園生活から小学校の生活へとつながるようなイメージや、幼児期の遊びを通した総合的な学びが各教科の学びへとつながるイメージ、人・もの・こととどのような関わりをもって成長していくかという視点

園と小学校の教職員から、園・小学校でのめあてや活動等を1枚の紙面にまとめた「カリキュラム」を計画・活用してみて、主に以下のような意見がありました。

- 園で身に付けた力を伸ばせるようなスタートカリキュラムを考えていきたい。
- 互いのめあて、具体的な活動内容が記載されているので方向性がよく分かる。そこに向けての活動に取り組みやすい。
- リンクカリキュラムにより、活動のつながりが可視化され、全教職員の共通理解を図ることができた。
- 地域の小学校へ共に入学するという意識をもち、校区内それぞれの園の共通目標や課題を確認しながら就学前の教育や保育を行うことができる。

STEP 3

参考資料

山陽小野田市 ○○○○園・△△小学校 リンク リンク カリキュラム (2023.6.17作成)

共通の視点項目	5歳児 11月	12月	1月	2月	3月	1年生 4月	5月	6月	7月
期待する子どもの姿	「お互いを認め合い、集団の中で同じ目的に向かって協力したり、小学校入学を喜び、自分の力」					「お互いを認め合い、1学期間は、児童が学校生活に慣れるための準備期間として考え、生活小学校生」			
自立的な生活態度	○園外保育() ・道路の歩き方	○ありがとうそうじ() ・そうじの使い方		○ありがとうそうじ() ・ほうぎの使い方	○園外保育() ・危険な場所 ○卒園式の練習()	○学級活動() ・気持ちのよいあいさつ ・学校のきまり ・衛生的なトイレの使い方		○給食:自分に合った量を調節し、時間内に食べる。()	○行動:チャイムの合図や時計の針で、黙って行動する。()
人とかわる力	○発表会の練習() ・鉄棒 ・マット	○ゆうびんごっこしよう	○お正月遊び() ・かるた ・すごろく	○卒園制作() ・カレンダーづくり	○園外保育() ・カレンダーづくり	○生活科:学校探検() ・あいさつ ・自己紹介 ・2年生とグループ活	○1年生を迎える会()	○交通安全教室 ・地域のおじいさん やおばあさんとの 触れ合い()	○縦割り班で遊び、善悪の判断を身に付ける。() ○登校:集合時刻を守り、きまりを守って集団登校する。()
豊かな感性	○発表会の練習() ○秋となかよし【小学生と交流活動】() ・秋さがし ・おもちゃづくり	○冬の自然を楽しむ()	○卒業制作() ・壁画づくり	○卒業制作() ・壁画づくり	○生活科:学校探検() ・2年生とグループ活動 ・学校で働く人について知ること	○生活科:学校探検() ・2年生とグループ活動 ・学校で働く人について知ること	○生活科:なつとなかよし() ・夏を感じる遊び	○道徳の時間で心を育て、心を磨く。()	○生活科:「育てよう、わたしの好きな花」飼ってみたいわたしのペット()
学ぶ意欲	○発表会の練習() ・合奏 ・スピーチ	○朝のスピーチタイム()	○お正月遊び() ・かるた ・すごろく	○学校ごっこしよう()	○朝のスピーチタイム()	○本の読み聞かせ()	○算数科:計算選手権()	○ミニ発表会() ・歌 ・スピーチ ・計算 ・ひらがな	○国語科:しりとりにゲーム()
家庭や地域との連携	■アンケートの実施 ■小学校教諭の説明会	■小学校生活を意識した絵本の紹介	■懇談会(希望者)	■0時まで登園 ■自分の持ち物を自分でそろえる。	■下校時刻のお知らせ ■次の日の持ち物を自分でそろえる。 ■進捗表の配布	■学級懇談会	■親子活動	■1学期個人懇談	
幼保小の連携	□学校授業参観 就学時検診	☆ふれあい交流会(年長・2年)	□授業参観(小学校教員参観)	□新入生1日入学 ☆交通教室(年長・5年)	□情報交換会	□授業参観(園教員参観) □情報交換会	☆児童と園児の交流会	□情報交換会	

- 1 活動をおして身につけさせたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどれにあたるのか分かるように明記する。
- 2 「幼保小連携」の項目において、子ども同士の交流については、☆印で明記する。
- 3 令和5年10月末までに学校教育課に提出する。

令和5年度の交流校区別の取組について

校區名 _____ 記入者氏名 _____

【1 リンクリンクカリキュラムの見直し・修正について】

【2 職員同士の研修や情報交換等】

(例: 相互参観や保育体験、情報交換、合同研修など)

実施済のもの
(内容 _____)

実施予定のもの
(内容 _____)

実施に向けて検討中又はこれから検討を始めるもの
(内容 _____)

【3 園児と児童の交流について】

(例: 生活科や総合的な学習の時間を活用したもの、行事への参加など)

実施済のもの
(内容 _____)

実施予定のもの
(内容 _____)

実施に向けて検討中又はこれから検討を始めるもの
(内容 _____)

カリキュラムをもとに、
年間の大まかな計画を立てます!



架け橋期のカリキュラムとは

幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携して作成するものです。

山口県が設定した架け橋期のカリキュラムの「開発の方向性」及び「共通の視点例」は以下のとおりです。

【山口県の架け橋期のカリキュラム「開発の方向性」】

- 地域、園・小学校が創意工夫しながら、それぞれの特色を生かしてカリキュラムの作成ができるようにする。
- 山口県における「共通の視点例」及び実践事例を示すことにより、各園・小学校、市町が架け橋期のカリキュラムを作成する上での手掛かりとすることができるようにする。

【山口県の架け橋期のカリキュラムの「共通の視点例」】

- 子どもたちの現状
- めざす子ども像（園・小学校・地域・家庭みんなで考える子ども像）
- 育みたい力（育みたい資質・能力、重点を置きたい10の姿、ねらい 等）
- 育ちと学びのつながり（園での活動と小学校の学習のつながり）
- 人のつながり
 - ・ 子ども同士のつながり（交流活動 等）
 - ・ 先生同士のつながり（合同会議・研修会 等）
 - ・ 家庭とのつながり
 - ・ 地域とのつながり
- 指導上の配慮事項（「つながり」に関するもの）
 - ・ 先生の関わり
 - ・ 環境の構成

次ページから、令和5年度幼児教育・保育長期研修生派遣園・在籍校作成・実践カリキュラムを事例として掲載しています。なお、センターWebページには、令和5年度以外の長期研修生派遣園・在籍校作成・実践カリキュラムも掲載しております。



架け橋期のカリキュラム例①「やない架け橋期のカリキュラム」

吹き出しに、作成園・小学校が「架け橋期のカリキュラム」作成に当たって大切にしたことや工夫点を示しています。

柳井市の枠となるものとして作成しました。めざす子ども像も市内共通のものです。

カラフルでかわいいデザイン*にし、架け橋期がイメージできるようにしました。また、「掲示するなどしていつも手元に置いてほしい」との思いも込めました。
 ☆ 右の二次元コードのデータはカラーになっていますので、ぜひご覧ください。

4月		3月		4月		8月		9月		3月								
<p>柳井市の枠となるものとして作成しました。めざす子ども像も市内共通のものです。</p>		<p>保育園(所)・幼稚園<5歳児>遊びを通した学び</p>		<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿</p>		<p>自分が大好き・友達が大好き・園や学校が大好き・柳井が大好き!!</p>		<p>小学1年生教科等を通した学び</p>		<p>令和6年 2月</p>								
こどもの育ちや学びのつながり	知識・技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 生活や活動の見通しをもち、考えて行動する。【①②】 運動会や発表会に向けて、自分達も内容を考えたり、友達と協力したりする。【③④⑩】 自分の気持ちを先生に受け止めてもらったり、行動を振り返ったりすることで、友達の思いやきまりの必要性に気付く、行動する。【④⑤⑥】 散歩や遠足などの園外保育で、公共施設を大切にすることで社会とのつながりを意識する。【④⑤】 みんなで使う物を大切にしたり、片付けたりして、自分で生活の場を整え、その必要性を理解する。【①④⑤】 		①健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできることを自分でしようとする。【②】 気持ちのよい挨拶や会釈、返事をしようとする。【①】 必要なものや日課を自分で準備しようとする。【②】 時間を意識して行動しようとする。【①②】 楽しくマナーよく給食を食べようとする。【①⑤】 先生や友達の名前を覚え、進んで関わろうとする。【③】 分からないことや困ったことは先生や友達に聞こうとする。【③】 学校のきまりを知り、ルールを守って生活しようとする。【④】 場に応じた言葉遣いの大切さを知り、使おうとする。【④】 学校応援団など地域の方とのふれあいを楽しむ。【⑤】 教科等の学習に興味・関心をもつ。【⑥】 校庭の自然に触れて、その変化を感じる。【⑦】 自分たちの遊びや生活、学習の中で楽しみながら数えたり比べたりする。【⑧】 友達や先生との会話を楽しむ。【⑨】 友達と楽しく歌を歌ったり、絵を描いたりしようとする。【⑩】 		②自立心	<ul style="list-style-type: none"> 学級や学校での過ごし方について知り、見通しをもって学校生活を送ることができる。【①】 登下校や学校生活の中での安全な過ごし方について考えたり判断したりすることができる。【①】 生活や学習の中で、めあてをもって取り組み、振り返ることができる。【②】 係や当番活動など自分の役割を果たすことができる。【②】 学校行事を通して、新しいことや初めてのことにも進んで挑戦し、友達と協力しながら活動することができる。【③】 相手の立場に立って考えたり、気持ちに寄り添おうとしたりすることができる。【④】 よいことと悪いことを判断し、よいと思うことを進んで行おうとする。【④】 友達との関わりの中で思いやりをもって言葉をかけ、行動することができる。【④】 行事や交流を通して、自分の成長や頑張り、友達のよさに気付くとともに、いつも自分を支えてくれる周りの人に目を向け、感謝の気持ちをもつことができる。【⑤】 探究心をもって予測したり、試したりして主体的に学習に取り組むことができる。【⑥】 植物や生き物と関わり、生命を大切にしようとする。【⑦】 数量や図形、標識や文字などを生活や学習の中で使うことができる。【⑧】 いろいろな場面での話し合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたり、質問したりすることができる。【⑨】 読書習慣を身に付け、言語に対する興味関心を広げるとともに、感じたことや考えたことを自分の言葉で表現することができる。【⑨】 自分のイメージを動きや言葉、絵などで表現することの楽しさを味わう。【⑩】 		③協同性	<ul style="list-style-type: none"> 自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探求心をもち、身近な動植物を命あるものとして大切に作る。【⑥⑦⑩】 園生活の中で充実感や満足感をもち、自分のやりたいことに向かって前向きに取り組む。【①②】 園生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らせたことを自分で表現する。【⑥⑨⑩】 仲間の意思を大切にしようとし、友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合ったりする。【③⑥⑨】 様々な経験や対人関係の広がりから自立心を高め、就学への意欲や期待をもつ。【②⑤】 		④道徳性・規範意識の芽生え	<p>※各園の特色に応じて変更も可能です。</p>		⑤社会生活との関わり	<p>※各校の特色に応じて変更も可能です。</p>	
	思考力・判断力・表現力の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ごっこ遊びの中で生活に必要な文字や数字、標識などに興味をもち、使うことで伝わる喜びを味わう。【⑧】 日々の生活を振り返り、楽しかったことを話したり聞いたりする。【③⑤⑨】 絵本や童話などの内容をこども自らの経験と結び付けたり、思いを巡らせたりして、思考力・想像力を豊かにする。【⑥⑩】 自分のイメージしたものをのびやかに表現し、友達同士で表現する過程を楽しみながら、喜びを味わう。【⑨⑩】 		⑥思考力の芽生え	<p>※各園の特色に応じて変更も可能です。</p>		⑦自然との関わり・生命尊重	<p>※各校の特色に応じて変更も可能です。</p>										
	学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探求心をもち、身近な動植物を命あるものとして大切に作る。【⑥⑦⑩】 園生活の中で充実感や満足感をもち、自分のやりたいことに向かって前向きに取り組む。【①②】 園生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らせたことを自分で表現する。【⑥⑨⑩】 仲間の意思を大切にしようとし、友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合ったりする。【③⑥⑨】 様々な経験や対人関係の広がりから自立心を高め、就学への意欲や期待をもつ。【②⑤】 		⑧数量や図形・標識や文字などへの関心、感覚	<p>※各園の特色に応じて変更も可能です。</p>		⑨言葉による伝え合い	<p>※各校の特色に応じて変更も可能です。</p>										
		<ul style="list-style-type: none"> 自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探求心をもち、身近な動植物を命あるものとして大切に作る。【⑥⑦⑩】 園生活の中で充実感や満足感をもち、自分のやりたいことに向かって前向きに取り組む。【①②】 園生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや思い巡らせたことを自分で表現する。【⑥⑨⑩】 仲間の意思を大切にしようとし、友達の主張に耳を傾け、共感したり意見を言い合ったりする。【③⑥⑨】 様々な経験や対人関係の広がりから自立心を高め、就学への意欲や期待をもつ。【②⑤】 		⑩豊かな感性と表現	<p>※各園の特色に応じて変更も可能です。</p>			<p>※各校の特色に応じて変更も可能です。</p>										

子どもの姿が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とつながっているのかを確認できるよう、番号を記入しました。

内容項目を細かくせず、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に子どもの姿のみを示すことで、各園の考えや特色ある取組を尊重し、どの園・小学校でも活用できるようにしました。

1年生前半期は、「~しようとする」という意欲目標としました。そうすることで、子どもたちに、寄り添った支援や言葉がけができるようにしてほしいとの願いを込めています。

カリキュラムのデータはこちら→



このカリキュラムの作成に当たった実践例を P29～32 に掲載しています！！

吹き出しに、作成園・小学校が「架け橋期のカリキュラム」作成にあたって大切にしたことや工夫点を示しています。

架け橋期のカリキュラム例②-1「周南市幼保こ小の架け橋期のカリキュラム(園)」

山口県の共通の視点例をもとに周南市が作成した枠を使用しました。

令和6年度周南市幼保こ小の架け橋期のカリキュラム(小さき花幼稚園)

①(架け橋期にめざす子供像)②(育みたい力)について話し合い、共通理解することでそれぞれの教育・保育実践へのつながりを考えることができるようになりました。

園と小学校、互いの実践を知り、聞き合うことができるように、園ではどのような行事や年齢グループの保育を行っているかを記載しました。同年齢クラスでの保育は、内容によって3つに分けて記載しています。

対象	5歳児												架け橋となる幼児期の終わりまでに育てばしい姿	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
時期	年長となった喜びを感じ、張り切って新しい生活を楽しむ時期				気の合う友達と遊ぶ中で、仲間意識が育っていく時期				友達との関わりを深めながら、活動や遊びを充実させていく時期				友達と共通の目的に向かって意欲的に取り組む時期	一年生になることへの期待が生まれ、活動への取り組みに自信が見られる時期
①架け橋期にめざす子供像	自分の思いをもち、喜んで表しあおうとする子						思いやりをもち、友達と一緒にさいごまで頑張るめく子							
②育みたい力(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・年長になったことへの喜び、自覚 ・身の回りがある自然に興味・関心を持ち、命の尊さを感じる心 ・自分の思いを伝える力、友達の意見にも耳を傾ける力 						<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで年少・年中児とかかわり、優しく接したり、助けたりしようとする力 ・自立心・友達と力を合わせ生活をすすめていく力 ・自分の力を発揮しながら、友達と共通の目的に向かって活動に取り組む力 							
③育ちと学びのつながり(活動・教科等)	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期始業式 ・挨拶・排泄・持ち物の始末 ・食卓の見直し ・交通安全教室 ・親子遠足(動物園) 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練(火災・不審者) ・親子の集い ・朝ご飯チャレンジ ・お泊り保育 ・親子遠足 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断 ・朝ご飯チャレンジ ・お泊り保育 ・1学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期始業式 ・徳小小学校探検 ・避難訓練(不審者・火災) ・ミニ運動会 ・秋まつりジュース屋さん 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐陽中職業体験 ・体操参観 ・運動会 ・クリスマスパーティー ・2学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス遠足(みかん狩り) ・保育参観 ・七五三祝儀式 ・クリスマス会(劇発表会) ・クリスマスパーティー ・2学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期始業式 ・郵便ごっこ ・避難訓練(火災・消防車見学) ・豆まき ・ドッジボール大会(2面) ・お別れ遠足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホットケーキ作り ・避難訓練(火災・消防車見学) ・ひなまつり会 ・音楽発表会(合奏・歌) ・卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・このぼりの制作 ・動物を作ろう ・自然物(園庭の花)の観察 ・リレーあそび ・走り測定(20Mのタイムを測る) ・鍵盤ハーモニカにさわってみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・水遊び ・水遊び ・跳び箱あそび ・鉄棒あそび ・鍵盤ハーモニカで短い曲を演奏してみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会の思い出を描こう ・外遊びを描こう ・走り測定(1周のタイムを測る) ・運動会遊び ・鍵盤ハーモニカでいろいろな曲に挑戦してみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びを描こう ・パズル遊び ・ドッジボール大会 ・縄跳び ・音楽発表会をつくりあげよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく見て描こう ・わたしの夢を描こう ・ストレッチ(教会) ・音楽発表会 	①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え
④人とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のつながり(交流活動) ・指導者同士のつながり(合同会議・研修会) ・家庭とのつながり ・地域とのつながり 												⑤社会生活とのつながり	
⑤指導上の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ●連続したことの喜びや、緊張、不安などの心の動きを受け止め、寄り添う。 ●クラス全体ではわかりやすいルールで友達とふれあえたり、賞で盛り上がりだせるような活動を取り入れる。 ●生活習慣や園生活の決まりを見直す。 ●一日の予定を文字や図で示し、見直しをもって遊びや生活に取り組めるようにする。 ●周囲との関わりの中で思いを伝えたり相手の思いに気付いたりできるように仲立ちをする。 ○交通指導員の方から、交通安全についてのルールを聞き、実際にやってみる。 ○遠足を通して地域や生き物に関心をもてるようにする。 ○園庭の花を観察し、自然物の美しさに触れ、細かくとりに気づく。 ●教師がすぐ教えるのではなく、「どうしたらいいかな」など問いかけることで、自分たちで考え、判断し、行動することを繰り返させ、主体的に学ぼうとする姿を引き出す。 ●様々な場面で「遊ぶ」場面を設定し、子どもが自分の思いを表出し、最後まで粘り強く取り組めるように援助する。 ●様々な場面で、子どもたちの「分かち合い」の場を大切にし、自分たちの学びの良さや次への見通しがもてるようにする。 												⑤社会生活とのつながり	

校区内でずっと取り組んでいる「小学校ちよこっと体験」を交流の重点に置き、互いに学びのある内容になるよう実践しようとして共通理解しました。

協議の中で園と小学校、互いが大切にしていると分かった「自分たちで考え判断することを繰り返すこと」「選ぶ場面の設定」「分かち合い(振り返り)を大切にすること」を2年間貫く保育者の関わりとして記載しています。

カリキュラムのデータはこちら→



このカリキュラムの作成に当たっての実践例を P29～32 に掲載しています！！

架け橋期のカリキュラム例②-2「周南市幼保こ小の架け橋期のカリキュラム(小学校)」

吹き出しに、作成園・小学校が「架け橋期のカリキュラム」作成に当たって大切にしたいことや工夫点を示しています。

山口県の共通の視点例をもとに周南市が作成した枠を使用しました。

小学校では、生活科を中心にした総合的な学びをデザインしていることが伝わるようにし、「振り返り(分かち合い)」に大切な、国語科の「話す・聞く」の単元も記載しています。「どんなことを学習するのか」を伝えるツールにもなっています。

園と小学校がめざす子ども像は、学校・地域連携カリキュラムにもつながっている部分があり、架け橋期の学びが18歳までの学びにもつながる重要なものだと伝わるように、中学校区のカリキュラムも掲載しました。

校区内で長年取り組んでいる「小学校ちよこつと体験」を1年生の学びの集大成とし、自分たちの成長を振り返り、次の学びへつなげられるような活動をめざしています。

対象		小学校1年生											
架け橋となる幼児期の終わりまでに育てほしい姿	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
時期		1年生になった喜びを感じ、意欲的に学校生活を送ろうとする時期	学校生活に慣れ、安心して自信をもって様々なことに関わり、友達と楽しく過ごす時期	学校のルールや考えを出し合い、学習や生活が充実する時期	同じ目的に向かって、友達と力を合わせて活動に取り組む時期	1年生の活動を振り返って自信をもち、2年生になることへの期待が高まる時期							
①架け橋期にめざす子供像		重点的に育みたい力	自分が経験したことや考えたことをのびのびと伝え合える子			自分たちの課題に向かって友達と最後まで粘り強く取り組もうとする子			【校中中学校区と連携したカリキュラム】(知) 自信をもって主体的に学び続ける人 (徳) 他者を思いやり、感謝の心をもつ人 (体) よい生活習慣と強い体をもつ人 (進捗) 地域の明日を担う人				
②育みたい力(ねらい)			話す力・聞く力・待つ力 自分の気持ちや考えが伝わる力			言葉の力 感動体験 共感する力			友達のことを理解しようとする力 コミュニケーション能力 友達と一緒に学びを作り出す力				
③育ちと学びのつながり(活動・教科等)			国語【こんなものみつけたよ】 国語【おはなをなぞろう】 国語【おはなをなぞろう】 国語【おはなをなぞろう】			国語【みんなに知らせよう】 国語【しらせたいなみせたいな】 国語【どんなおはなができるかな】			国語【いいこといっぱい1年生】 国語【くわしくまごう】 国語【いいこといっぱい1年生】 国語【いいこといっぱい1年生】				
④健康な心と体			【いちねんせいはいはまるよ】 【なまよしいっぱいがっこうたんけん】 【なつとともだち】			【いもものなまよし】 【あまとともだち】			【みんなのここに大きくせん】 【もうすぐみな2年生】・交流活動 ○月○日(○) 【ふゆとともだち】・交流活動 ○月○日(○)				
⑤自立心			国語科「話す・聞く」 園での学びのつながりが強く見られる単元を記載している。 ・実印は画期的に行えそうなもの			国語科「話す・聞く」 園での学びのつながりが強く見られる単元を記載している。 ・実印は画期的に行えそうなもの			国語科「話す・聞く」 園での学びのつながりが強く見られる単元を記載している。 ・実印は画期的に行えそうなもの				
⑥人とのつながり(交流活動)			交流活動1(2～6年生) 1年生を迎える会			交流活動2(6年) スポーツテストの仕方をおもてよう			交流活動3(幼児) 秋をいっしょに楽しもう ・園児さんとかけっこをしよう				
⑦自然との関わり			交流活動4(2～6年 保護者 地域の方) 親子班集會			交流活動5(年長児) 小学校ちよこつと体験							
⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			幼小合同会議1(連絡協議会) 1年公開授業			幼小合同会議2(連絡協議会) アプローチカリキュラム紹介							
⑨言葉による伝え合い			幼小合同会議2(連絡協議会) アプローチカリキュラム紹介			幼小合同会議3(連絡協議会) アプローチカリキュラム紹介							
⑩豊かな感性と表現			幼小合同会議3(連絡協議会) アプローチカリキュラム紹介			幼小合同会議4(連絡協議会) アプローチカリキュラム紹介							
⑪指導上の配慮事項			●生活リズムを戻しながら、学校生活のルールを再確認したり、2学期の目標を立てたりすることで、2学期への期待をもてるようにする。			●行事への取り組みを通して、友達と協力する楽しさや、苦手なことにもチャレンジしようとする粘り強さ、達成感を味わえるように、振り返り等を通して過程をしっかり価値づけ、自信につなげられるようにする。			●自分たちの成長を振り返り、2年生進級への喜びや期待をもたせるため、各教科の学びのまとめや行事への取組を行う中で、一人ひとりの成長を価値付けられるようにする。				
⑫数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			●園の経験と共通性を感じ取らせることで、安心感を抱きながら考えた表現したりできるようにする。			●園の経験と共通性を感じ取らせることで、安心感を抱きながら考えた表現したりできるようにする。			●園の経験と共通性を感じ取らせることで、安心感を抱きながら考えた表現したりできるようにする。				
⑬言葉による伝え合い			●子ども同士が互いの考えを話し合えるようにペア学習などを取り入れる。			●子ども同士が互いの考えを話し合えるようにペア学習などを取り入れる。			●子ども同士が互いの考えを話し合えるようにペア学習などを取り入れる。				
⑭豊かな感性と表現			●子ども同士の意見の相違が起きたときは、子ども同士の関わりを見守りながら、思いに共感するとともに、園ではどうしていたかを思い出させ、自分がどうすればよかったのかを考えさせられるようにする。			●子ども同士の意見の相違が起きたときは、子ども同士の関わりを見守りながら、思いに共感するとともに、園ではどうしていたかを思い出させ、自分がどうすればよかったのかを考えさせられるようにする。			●子ども同士の意見の相違が起きたときは、子ども同士の関わりを見守りながら、思いに共感するとともに、園ではどうしていたかを思い出させ、自分がどうすればよかったのかを考えさせられるようにする。				
⑮指導上の配慮事項			●生活科を中心とした総合的・関連的な指導の充実を図る。(いろいろな経験をする場の設定 季節や行事に合わせた環境支援)			●生活科を中心とした総合的・関連的な指導の充実を図る。(いろいろな経験をする場の設定 季節や行事に合わせた環境支援)			●生活科を中心とした総合的・関連的な指導の充実を図る。(いろいろな経験をする場の設定 季節や行事に合わせた環境支援)				
⑯豊かな感性と表現			●教師がすぐ教えたり説明したりするのはなく、自分たちで考え、判断し行動することを繰り返して、主体的な学習者として育つための関わり方を大切にす。			●教師がすぐ教えたり説明したりするのはなく、自分たちで考え、判断し行動することを繰り返して、主体的な学習者として育つための関わり方を大切にす。			●教師がすぐ教えたり説明したりするのはなく、自分たちで考え、判断し行動することを繰り返して、主体的な学習者として育つための関わり方を大切にす。				
⑰豊かな感性と表現			●課題解決のために「選ぶ」場面を意図的に取り入れ、子どもが自分の思いを表現できるようにする。(自分の思いを伝え合う場の設定)			●課題解決のために「選ぶ」場面を意図的に取り入れ、子どもが自分の思いを表現できるようにする。(自分の思いを伝え合う場の設定)			●課題解決のために「選ぶ」場面を意図的に取り入れ、子どもが自分の思いを表現できるようにする。(自分の思いを伝え合う場の設定)				
⑱豊かな感性と表現			●子どもたちの「振り返り」の時間を大切にし、自分たちの学びのよさや次への見通しがもてるようにする。(振り返りを生かした授業づくり)			●子どもたちの「振り返り」の時間を大切にし、自分たちの学びのよさや次への見通しがもてるようにする。(振り返りを生かした授業づくり)			●子どもたちの「振り返り」の時間を大切にし、自分たちの学びのよさや次への見通しがもてるようにする。(振り返りを生かした授業づくり)				
⑳豊かな感性と表現			○児童が安心感を持ち、自ら学びを広げたり、自分の力で学校生活を送ったりすることができるよう学習環境を整える。(道具の使い方 机の配置 場の設定などを視覚的に示す。活動のパターン化を図る など)			○児童が安心感を持ち、自ら学びを広げたり、自分の力で学校生活を送ったりすることができるよう学習環境を整える。(道具の使い方 机の配置 場の設定などを視覚的に示す。活動のパターン化を図る など)			○児童が安心感を持ち、自ら学びを広げたり、自分の力で学校生活を送ったりすることができるよう学習環境を整える。(道具の使い方 机の配置 場の設定などを視覚的に示す。活動のパターン化を図る など)				

協議の中で園と小学校、互いが大切にしていると分かった「自分たちで考え判断することを繰り返すこと」「選ぶ場面の設定」「分かち合い(振り返り)を大切にすること」を2年間貫く教師の関わりとして記載しています。

カリキュラムのデータはこちら→



架け橋期のカリキュラム例③-1「下関市川中小学校区架け橋期のカリキュラム(人をつなぐ)」

吹き出しに、作成園・小学校が「架け橋期のカリキュラム」作成に当たって大切にしたことや工夫点を示しています。

架け橋期を通してどのような子どもを育てたいのかを表す「めざす子ども像」を決めることで、共通の視点で同じ小学校区の子どもたちを育成することができると考えました。

以前作成されていた接続期のカリキュラムをもとに、「人をつなぐ」ページと「学びをつなぐ」ページに整理し、2枚にまとめました。

交流活動を中心として、上側が園、下側が小学校の欄として、保幼小のつながりが分かりやすくなるようにまとめました。

下関市川中小学校区(木の楽保育園・ひだ保育園・川中幼稚園・下関国際高等学校付属幼稚園) 架け橋期のカリキュラム		【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】																																			
		①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現																																			
		自分でき判断する子				やさしい子(認め合い支え合う子)				つよい子(粘り強く、一生涯命取り組む子)																											
		♣かしこい子(意欲的に学び、表現する子)				♥やさしい子(認め合い支え合う子)				♦つよい子(粘り強く、一生涯命取り組む子)																											
		年長5歳児																																			
		4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
めざす子ども像	幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ●年長児になったことの喜びや期待感が見られ、年少児からつながりのある友達と一緒に遊ぼうとする。 ●戸外で活動することも好み、いろいろな運動を遠くまで。 ●身近な動物に関わりもち、言葉を覚える。 																																			
育みたい力	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい環境に慣れ、友達とのあそびを楽しむ。(♣♥) ●年長児としての自覚をもち、生活に必要なきまりを守る。(♦) ●身近な動物に関わり、親しみをもって世話をしたりするなかで、やさしい気持ちで接することの大切さを感じる。(♥) 																																			
環境構成	☆保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化から落ち着かない幼児も多いので、使い慣れた遊具や用具を準備し、安心して遊べるようにする。 ・いろいろな素材や用具などを自分たちで遊び、伸び伸びと遊べるように用意しておく。 ・動物園の世話や命に関する絵本の読み聞かせ等を通し、命の大切さについて知らせる。 ・6年生児になった喜びや緊張、不安などさまざまな気持ちに寄り添い、一人ひとりの丁寧に受け止める。 ・☆異年齢とかわからず中で、世話をしようとする気持ちになるようにする。 ・☆教師も一緒に驚いたり、感動したりして、幼児の喜びや発見を大切にしたい。 																																			
家庭との連携	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○進級時の生活の様子を知らせ、幼児が安定して過ごせるよう協力する呼び掛け。 ○基本的な生活習慣について、園と家庭で一貫した指導ができるように伝えていく。 ○家庭訪問、個人懇談等を通して、園でのあそびの様子や年長児になってからの成長の姿を知らせる。 ○連絡帳を通してやり取りしたり、その日の保育について隔りに保護者に伝えたりする。 																																			
交流活動の予定	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生授業参観 交流会前打ち合わせ(4月) ●1年生授業参観 運動会練習見学 ●1年生授業参観 幼児小研修会(7月) ●2年生との交流(学級)JA♥ ●5年生との交流(6月)♣♣ ●進級会、(給食見学会)・トイレの使い方 ●プール見学・裏庭見学・トイレの使い方 ●1年生授業参観 2年生との交流(学級)JA♥ ●就学期研修(10月)♥♥ ●1年生を味わう体験・トイレの使い方 ●生活科授業参観・トイレの使い方 ●授業参観(土曜日)(11月) ●園の話(園教務指導)(11月) ●校長室見学・トイレの使い方 ●園遊会利用・トイレの使い方 ●幼小連絡協議会(来年度のうち合わせ) ●全校授業参観 ●1年生との交流(年長児の小学校体験)♥♦ ●予備入学(2月) 																																			
小学校	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●1年生になったことへの喜びや期待感が見られ、年少児からつながりのある友達と一緒に遊ぼうとする。 ●戸外で活動することも好み、いろいろな運動を遠くまで。 ●身近な動物に関わりもち、言葉を覚える。 																																			
環境構成	☆教師の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生になったことへの喜びや期待感が見られ、年少児からつながりのある友達と一緒に遊ぼうとする。 ●戸外で活動することも好み、いろいろな運動を遠くまで。 ●身近な動物に関わりもち、言葉を覚える。 																																			
家庭との連携	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○進級時の生活の様子を知らせ、幼児が安定して過ごせるよう協力する呼び掛け。 ○基本的な生活習慣について、園と家庭で一貫した指導ができるように伝えていく。 ○家庭訪問、個人懇談等を通して、園でのあそびの様子や年長児になってからの成長の姿を知らせる。 ○連絡帳を通してやり取りしたり、その日の保育について隔りに保護者に伝えたりする。 																																			

園では、家庭との連携を大切にしています。小学校でもできる家庭との連携を考え、引き続き家庭と協力しながら子どもたちを育てていきたいと考えました。

カリキュラムのデータはこちら→



カリキュラム例 架け橋期の

架け橋期のカリキュラム例③-2「下関市川中小学校区架け橋期のカリキュラム(学びをつなぐ)」

吹き出しに、作成園・小学校が「架け橋期のカリキュラム」作成に当たって大切にしたことや工夫点を示しています。

園では、それぞれ特色ある取組を行っているので、全てを載せることは難しいと考え、「小学校の教科教育につながる活動」に絞りました。小学校へのつながりとともに、それぞれの園での特色ある保育を確認することもできました。

「学びをつなぐ」のページでは、主な行事と園での活動内容と小学校での教科指導の内容について載せました。

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】
 ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え
 ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、図表や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

めざす子ども像	自分で考え判断する子											
	♣かしい子 (意欲的に学び、表現する子)				♥やさしい子 (認め合い支え合う子)				◆つよい子 (粘り強く、一生懸命取り組む子)			
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動	・好きなあそび 【砂あそび、ままごと、移動遊具、固定遊具、草花あそび、虫探し、鬼ごっこ、製作あそび、ごっこあそび、】 ・廃材あそび ・花の種、野菜の苗植え ・飼育物の世話 ・体操・リズムあそび ・園内探検 ・年少児のお手伝い(当番活動)	・好きなあそび ・こいのぼりづくり ・家族の日プレゼントづくり ・絵具あそび【個人絵の具】(通年) ・風車づくり ・共同制作(壁面づくり) ・運動遊び 【行進、体操、遊戯、かけっこ】 ・玉ねぎ取履	・好きなあそび ・水・プールあそび 【色水あそび、泡あそび、シャボン玉あそび、浸し染め、はじき絵】 ・芋の苗植え ・歯磨き指導 ・お天気調べ ・言葉あそび ・時計づくり	・好きなあそび ・七夕飾りづくり ・水・プールあそび ・野菜の収穫 ・鍵盤ハーモニカ練習 ・おまつりごっこ ・鉛筆テスト ・大掃除	・好きなあそび ・水・プールあそび ・おまつりごっこ	・好きなあそび ・運動あそび 【ドッジボール、サッカー・スイングスキャップ・短縄】 ・木の実や木の葉あそび ・球根植え、水栽培 ・芋掘り・焼き芋 ・ハーモニカ練習 ・歌唱	・好きなあそび ・運動あそび 【ドッジボール、サッカー・スイングスキャップ・短縄】 ・木の実や木の葉あそび ・楽器あそび ・劇あそび ・土手あそび ・廃材あそび ・玉ねぎ苗植え	・好きなあそび ・運動あそび ・長縄あそび ・木の実や木の葉あそび ・ペーパーサート ・楽器あそび ・劇あそび ・土手あそび ・廃材あそび ・玉ねぎ苗植え	・好きなあそび ・運動あそび ・マラソン ・ゲームあそび ・クリスマス飾り作り ・お土産さんごっこ ・廃材あそび ・郵便ごっこ ・大掃除	・好きなあそび ・運動あそび ・マラソン ・劇あそび ・正月遊び 【凧あげ、駒返し、羽根つきなど】 ・ゲームあそび 【かるた、トランプ、すごろくなど】 ・鬼のお面づくり ・郵便ごっこ	・好きなあそび ・運動あそび ・マラソン ・ゲームあそび ・ひな人形づくり ・作品集作り ・楽器あそび	・好きなあそび ・運動あそび ・縄跳びあそび ・卒園に向けて
保育の主な行事	始業式、入園式、誕生会、下関いのちの日、家庭訪問、選書会、避難訓練【通年】	誕生会、親子交通教室、参観日 学級懇談、小運動会	誕生会 日曜参観日 虫歯予防集会	誕生会、七夕集会、個人懇談、終業式、作品展(鑑賞会)、四方山保育	誕生会、夏祭り	誕生会、始業式、運動会、遠足	誕生会、バス遠足、お土産さんごっこ	誕生会、リズム会 お土産さんごっこ	誕生会、個人懇談 発表会、お楽しみ会(クリスマス会)、終業式	誕生会、始業式、お正月会、参観日	誕生会、豆まき 生活発表会	誕生会、お別れ会、ひなまつり会、卒園式、修了式、お別れ遠足
交流活動の予定	新1年生情報交換会 交流事前打ち合わせ(4月) 1年生授業参観(5月) 運動会練習見学		1年生授業参観 保幼小研修会(7月) 2年生との交流(芋掘え)JA♥ 5年生との交流(6月)♣ 選書会後、給食見学・トイレの使い方 プール見学後裏庭見学・トイレの使い方		1年生授業研修 2年生との交流(芋掘り)JA♥ 就学時健診(10月)♥♥ 1年生授業参観後トイレの使い方 生活科授業参観後トイレの使い方		授業参観日(土曜日)(11月) 歯の話(養護教諭指導)(11月) 校長室等見学後トイレの使い方 図書室利用後トイレの使い方		幼保小連絡協議会(来年度のう合わせ) 全校授業研修 1年生との交流(年長児の小学校体験)♥◆ 予備入学(2月)			
小学校の主な行事	入学式、下関いのちの日、参観日学年はじめ懇談	1年生を迎える会、運動会、	参観日、水泳開始、個人懇談(希望者のみ)終業式	始業式	参観日	個人懇談、社会見学、就学時健康診断	土曜参観、PTAバザー児童集会、持久走大会	終業式	始業式、参観日、	予備入学、参観日	6年生をおくる会、卒業式、修了式、離任式	
生活科	がっこうだいすきいねんせい 初めての学校生活で、先生や友達と関わりながら、施設や生活のしかた、登下校に慣れ、安心して楽しく生活できるようにする。 ・たくさんあそびたい。 ・がっこうもたのしいよ。 ・わくわくとどきどきするね。 ・なかくないな。 ・わたしもやってみよう。 ・もっとがっこうをしてみたいな。	いくぞ！がっこうをたんけんたい 学校探検する活動を通して、たくさんの人・もの・こととの出会い関わりを繰り返していく中で、学校を支えている施設、人、友達のことやわたり、楽しく安心して遊びや生活ができると共に、6年間の小学校での学びについて見直しをもち、卒業をもちたして、学校の自分の生活を豊かに広げようとする。	きせつとおそぼう【はるからなつ】【あめのひをたのしもう】【なつをもっとたのしもう】【なつやみがやってくる】【あき】【ふゆ】 ・年間を通して身近な自然に触れながら全体を使って遊んだり、自然を使って工夫して遊んだりする。 ・活動を通して、自然の不思議さ、季節の変化に気づき、遊びや生活を楽しくする。 わたしのはなをそでよう ・自分で決めた植物を種から育てることで、植物への思いをもって世話をすることができるようになる。 ・植物の気化や成長の様子に気づくとともに、生命の不思議さに触れ、植物も自分たちと同じように命をもって成長していることに気づき、親しみをもって大切にしようとする。 生きものだいすき ・身近な生き物を探したり観察したりしながら、その特徴に気づくことができる。 ・生き物に親しみをもち、たいせつにしようとする。	じぶんではチャレンジ大きくせん 家庭における自分や家族の生活についてかんがえることで、家庭での生活は互いに助け合うことで成り立っていることに気づき、自分ができることを実行したり、規則正しい生活に気づき、健康に気づき、生活しようにする。	むかしからのあそびをたのしもう いろいろな遊びがあること、地域ごとにちがっての行事や文化があることを知り、自分がやりたい遊びや自分の地域の行事や文化に気づき、知るところをええ。また、実際に取り組んで感じたことや気づいたことを自分の生活に気づき入れようとする。生活しようにする。	もうすぐ2年生 1年間の自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分とは多くの人々に変えられていることや、じぶんではできるようになったことなどに気づくとともに、自分の生活やこれまでの成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いと期待をもって生活しようにすることができる。						
その他の教科	国語科「いいてんき」 「あつまって はなそう」 音楽科「うたっておどってなかくなろう」 体育科「うんどうしようであそぼう」 「ゆうぐをつかってみよう」 道徳科「みんなであそぼう」 「あいきつてげんまに」 「みんなであそぼう」 「みんなあそびたい」 図画工作科「すきなもいっばい」 「ねんどとなかよし」	国語科「どうぞよろしく」 「なんていおうかな」 「こんなものみつけたよ」 「ききたいな、ともだちのはなし」 「はなのみち」 音楽科「はくをかんじようろう」 体育科「うんどうかいにむけて」 道徳科「がっこうたんけん」 「わたしにできること」 図画工作科「はこはこをくみあわせて」 「きらきらどろどろいもいもち」	国語科「わけをはなそう」 「くくばし」 「おおきなかぶ」 「すきなもの、なにあ」 「おむすびごころり」 音楽科「はくにのりりすむをうとう」 体育科「リレーでようしよう」 「みずあそび」 図画工作科「みてみて、いっばいつくったよ」 「チョッキンパカでかろう」 「なが〜いかから」	国語科「いちねんせい うた」 「ききたいな、ともだちのはなし」 「やくそく」 「うみの かくれんぼ」 「くじらぐも」 「くらせたいな 見せたいな」 音楽科「みのまわりのおとにみみをすまそう」 「どれまとなかくなろう」 体育科「マッパあそび、とびはこあそび、てつぽあそび」 「たからとりに」 道徳科「おとしよりといっしょに」 図画工作科「おはなしからうまれたよ」 「ひかりのくにのなかまたち」 「きわてかくのきもちいい」	国語科「じどうしゃ くらべ」 「ともだちのこと、しらせよう」 「おかけの おなべ」 「もの なまえ」 音楽科「せんりつでよびかけあおう」 「がうまとなかくなろう」 「ようすをおもいうかべよう」 体育科「ボール投げあそび」 「じまゆうそう」 道徳科「おはしのおおかみ」 図画工作科「のってみたいないきたいな」	国語科「ききたいな、ともだちのはなし」 「たぬきの 傘」 「これは、なんでしょう」 「ずうっと、ずうと、大ききだよ」 「いいこといっぱい、一年生」 音楽科「はなのうたをたのしもう」 「みんなであわせたのしもう」 体育科「なわとび」 「ボール投げあそび」 道徳科「もうすぐ2年生」「二わのこり」 図画工作科「このころのはなをきかせよう」 「スタンプ、スタンプ！」						

生活科を中心とした、総合的・関連的な指導を行うに当たり、生活科の単元、ねらいを載せることで、見通しをもって保育や授業を行うことができると考えました。



引用・参考文献

- 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年 3 月告示）
- 文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年 3 月告示）
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 26 年 4 月告示）
- 文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」（平成 4 年 3 月）
- 無藤 隆「保育の学校 3」フレーベル館（2011 年）
- 鳥取県教育委員会 鳥取県幼保小接続ハンドブック「育ちと学びをつなぐ」（平成 30 年）
- 広島市乳幼児教育保育支援センター「幼保小接続に向けた手引き」（令和 2 年）
- 掛川市教育委員会「『かけがわ型架け橋カリキュラム』作成に向けて」（令和 5 年）
- 山口県子育て支援連携推進委員会「つながる子どもの育ち 改訂版」（平成 23 年）

参考資料

本冊子の実践をより深めることのできる資料です。是非御覧ください。

1 指針・要領等 <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/264254.html>

- ・ 保育所保育指針解説 ・ 幼稚園教育要領解説
- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
- ・ 小学校学習指導要領解説 総則編
- ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
- ・ 遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”（動画コンテンツ）
- ・ 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？



2 幼保小の架け橋プログラム

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/264225.html>

- ・ 手引き
- ・ 参考資料



3 幼児教育・保育長期研修

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/264262.html>

- ・ 研修概要
- ・ 長期研修計画書・報告書
- ・ 研修生作成カリキュラム



4 幼児教育アドバイザー等

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/204533.html>

- ・ アドバイザー等訪問の手引き



5 つながる子どもの育ち

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/271357.html>



6 保幼小連携に関するリーフレット

「はじめのいっぽ」

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/217832.html>



山口県架け橋期のカリキュラム開発会議委員（R4年度～R6年度） ※ 所属・職は当時

氏名	所属	職	備考
田中 マキ子	山口県立大学	学 長	学識経験者・会長
川崎 徳子	山口大学	准 教 授	学識経験者
松永 雅子	愛児園平川保育所	所 長	保育所関係者
小山 敦美	下関市立第一幼稚園	園 長	公立幼稚園・こども園 関係者
高見 恵子	山口市立宮野幼稚園	園 長	公立幼稚園・こども園 関係者
松重 洋子	平生町立平生幼稚園	園 長	公立幼稚園・こども園 関係者
青木 香雄	認定こども園 美祢幼稚園	園 長	私立幼稚園・こども園 関係者
中村 直子	認定こども園 野田学園幼稚園	副 園 長	私立幼稚園・こども園 関係者
平野 幸世	山口市立上郷小学校	校 長	小学校関係者
上野 敦子	山口県地域連携教育推進協議会	委 員	地域連携教育関係者
盛満 恵	下関市こども未来部幼児保育課	主 査	市町保育主管課担当者
内村 樹子			
近森 利栄	周南市教育委員会学校教育課	指導主事	市町教育委員会担当者
小林 弘典			

山口県架け橋期のカリキュラム開発会議事務局委員（R4年度～R6年度） ※ 所属・職は当時

氏名	職	所属
井原 哲典	主 幹	山口県教育庁義務教育課
原田 孝之		
久富 修己	指導主事	山口県教育庁特別支援教育推進室
品川 竜典		
藤田 昌也	社会教育主事	山口県教育庁地域連携教育推進課
阿野 隆志		
田中 哲也		
三木 昌子	主 幹	山口県健康福祉部こども・子育て応援局こども政策課
吉村 功二		
重村 励志	主 任	山口県総務部学事文書課
竹重 和哉		

保幼小連携に係る資料作成ワーキンググループ委員（R5年度～R6年度） ※ 所属・職は当時

氏名	所属	職	備考
金子 幸	周南公立大学	准教授	学識経験者・グループ長
青山 翔	山口大学	講師	学識経験者
浅野 望	やまぐち子育て福祉総合センター	主任	保育所関係者
野村 直哉	愛児園平川保育所	主任	保育所関係者
上風呂 尚美	周南市立須々万幼稚園	主任	公立幼稚園・こども園関係者
金田 裕子	下関市立川中幼稚園	主任	公立幼稚園・こども園関係者
和高 ゆかり	認定こども園 ふくがわこども園	主任	私立幼稚園・こども園関係者
信國 里美	認定こども園 松崎幼稚園	主任	私立幼稚園・こども園関係者
町田 良美	柳井市立柳井小学校	教諭	小学校関係者
中山 理恵	周南市立德山小学校	教諭	小学校関係者
伊秩 宏美	下関市立川中小学校	教諭	小学校関係者
篠田 一郎	美祢市市民福祉部子育て支援課	副主幹・主査	市町保育主管課担当者
山縣 利恵	山陽小野田市教育委員会学校教育課	指導主事	市町教育委員会担当者
能野 奈々			

山口県架け橋期のカリキュラム開発会議・保幼小連携に係る資料作成事務局委員
（R4年度～R6年度） ※ 所属・職は当時

氏名	職	所属
田中 マキ子	所長	山口県乳幼児の育ちと学び支援センター
中谷 仁美	次長	
中島 香織	次長・主査	
竹内 秀一	総務課長	
志賀 直美	主査	
守田 沙織	指導主事	
重枝 孝明		
松井 昭憲		
伊藤 あすか		
梅岡 依央		
西岡 萌恵		
盛満 恵	幼児教育アドバイザー	
八木 真	事務職員	



山口県乳幼児の育ちと学び支援センター

〒753-8501 山口市滝町1番1号(県庁15階)

Mail:a50908@pref.yamaguchi.lg.jp

Tel:083-933-4450 Fax:083-933-4456